

第4次上山市地域福祉活動計画
(令和5年度～令和9年度)

社会福祉法人 上山市社会福祉協議会

はじめに

今日、少子高齢化や核家族化が進行する中で、住民が抱える日常生活課題はますます多様化、複雑化しています。さらに新型コロナウイルス感染症の拡大は、経済や社会活動に大きな影響を及ぼし、生活困窮者の増加や要支援者の孤立など、従来の福祉制度では対応が困難な状況となっています。

これらの課題に対して、今までの児童福祉、障がい福祉、高齢福祉、生活困窮といった枠組みだけでは対応が難しく、地域全体でささえる体制の構築と総合的な支援のあり方が求められております。

この度本会では、現在の社会情勢やこれまでの取り組みの評価を踏まえ、第3次上山市地域福祉活動計画で築き上げた福祉のまちづくりを基盤とした地域福祉の活動指針である、「第4次上山市地域福祉活動計画」を策定いたしました。

本計画は、令和5年度（2023年度）から令和9年度（2027年度）までの5ヵ年間の計画期間とします。住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるために、日常生活の中で、市民一人ひとりが福祉の心（相手を思いやる）をはぐくみ、互いにささえあうことができるよう、各関係機関等と共に連携・協働しながら、福祉のまちづくりに取り組むことを目指すものです。

計画を策定するにあたり、地域におけるニーズ把握や現状と課題、地域での取り組み等を把握するため、3種類のアンケート調査を実施したほか、上山市地域特性調査を実施して、幅広く市民から意見等を聞き、その結果を計画に反映させました。また、第7次上山市振興計画や関係機関等で策定されている諸計画との調和や連携を図りながら、「上山市地域福祉活動計画策定委員会」において、協議・検討を重ねてきました。

今後は、本計画の基本理念となる、「福祉の心をはぐくみ 共にささえあう つながりのあるまち上山」の実現に向け、計画の実践に積極的に取り組んでまいりますので、皆様からの一層のご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、本計画を策定するにあたり、ご審議をいただきました策定委員の皆様方をはじめ、多大なるご尽力を賜りました多くの関係者の皆様に対し、心より御礼申し上げます。

令和5年3月

社会福祉法人 上山市社会福祉協議会
会長 横戸 長兵衛

第4次上山市地域福祉活動計画の策定に寄せて

地域社会が目まぐるしく変化する中で、地域における日常生活課題は増加し、その内容也多岐にわたっております。このような中で、地域福祉活動を推進する組織である社会福祉協議会に対しての、市民からの期待は大きく、課題解決のための役割が求められています。

さて、この度、第4次上山市地域福祉活動計画を策定するにあたり、地区会長、民生委員・児童委員、公民館、福祉団体、社会福祉施設、ボランティア、行政関係者、福祉関係機関、学識経験者の17名で構成された「上山市地域福祉活動計画策定委員会」を4回にわたり開催し、審議や検討を重ねてまいりました。

また、計画を策定するにあたり、アンケート調査と地域特性調査を実施して、幅広く意見等を聞き、その結果を反映させました。策定委員はじめ関係各位に対し、令和5年度より本計画を推進することができますことに、心から感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

本計画では、「福祉の心をはぐくみ 共にささえあい つながりのあるまち上山」を基本理念とし、「ささえあう」、「はぐくむ」、「つながる」を基本目標に掲げ、市民やボランティア、関係機関・団体、行政等の参加のもと、連携・協働し地域福祉の推進を図ります。

今後、社会福祉協議会には、市民の皆様の声を集約したこの計画をしっかりと実行し、確実な成果を積み上げていくことが求められています。そのため、各事業の進捗状況や目標達成状況、課題の分析などを通じて、事業内容の改善を行うとともに、新たな課題等に対して柔軟かつ迅速に対応できるよう、計画内容の見直し等を行っていただきたいと思えます。

おわりに、第4次地域福祉活動計画を策定するにあたり、東北福祉大学 都築光一教授、佐藤英仁准教授、山形県社会福祉協議会よりご協力を賜り、計画を策定できたことに対しまして、衷心より感謝申し上げます。

令和5年3月

第4次上山市地域福祉活動計画策定委員会
委員長 堀川 博美

目 次

第1章	第4次上山市地域福祉活動計画の概要について	
	1. 計画策定の趣旨	1
	2. 計画の期間	2
	3. 計画の策定と実行	2
第2章	地域福祉活動をめぐる現状と課題	
	1. 上山市の現状	3
	2. 上山市における地域福祉の現状と課題	7
	3. 上山市地域特性調査の報告	8
	4. 第4次上山市地域福祉活動計画策定に関するアンケート結果	9
	・ 市民アンケート	10
	・ 民生委員・児童委員、主任児童委員アンケート	26
	・ 上山市社会福祉法人等連絡協議会アンケート	36
第3章	第4次上山市地域福祉活動計画の基本的な考え方	
	1. 基本理念	40
	2. 基本目標	40
	3. 計画の体系図	41
	4. 計画の推進体制と進行管理	42
	5. 計画の公表と周知啓発	42
第4章	第4次上山市地域福祉活動計画の具体的な取り組み	
	基本目標1 ささえあう	
	基本計画 (1)地域づくり	43
	基本計画 (2)支援づくり	46
	基本目標2 はぐくむ	
	基本計画 (1)人づくり	49
	基本計画 (2)意識づくり	52
	基本目標3 つながる	
	基本計画 (1)活きがいづくり	54
関係資料		
	上山市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱	56
	令和3年度 上山市地域福祉活動計画策定委員名簿	57
	令和4年度 上山市地域福祉活動計画策定委員名簿	58
	上山市地域福祉活動計画策定までの経緯	59

第1章 第4次上山市地域福祉活動計画の概要について

1. 計画策定の趣旨

少子高齢化が進行するなか、日常の生活様式や家族のあり方の変化、一人暮らし高齢者世帯の増加、介護や子育て、生活困窮やひきこもりの課題、地域におけるつながりの希薄化等、地域福祉を取り巻く環境は大きく変化しています。

このような変化により、多様化・複雑化する市民の地域生活課題に対して、現在の社会保障や公的な福祉サービスだけで対応することは困難な状況となっています。

国においては、国民誰もが様々な地域生活課題を抱えながらも住み慣れた地域で自分らしく暮らしていけるよう、制度・分野ごとの「縦割り」や、「支え手」・「受け手」という関係を越えて、地域住民や多様な主体が役割を持ち、お互いにささえあいながら活躍できる「地域共生社会」の実現を目指し、包括的な支援体制の構築を目指すこととしています。

こうした中、高齢者をはじめ、誰もが安心して、生きがいを持って生活していくためには、身近な地域において、お互いにささえあうしくみを作っていくとともに、地域住民がボランティア等の福祉団体や民間事業者、行政等と協働して地域福祉を進めていくことが必要となります。

本会においては、地域福祉を推進する中核機関として、より一層の地域福祉の増進に努めてまいります。そのためには、地域活動を活発にするとともに、行政だけでは解決できない地域生活課題を地域全体で解決することを目指したしくみづくりにも、市民はじめ、各関係機関との連携・協働しながら取り組んでまいります。

第3次上山市地域福祉活動計画では、「共に支えあい みんながつながる 福祉のまち上山」を基本理念に位置付け、「ささえあう」、「はぐくむ」、「つながる」を基本目標に掲げ、市民やボランティア、関係機関・団体、行政等の参加のもと、各種施策を展開してきました。

具体的には「高齢者等の日常生活への支援」、「子どもや障がい者の分野への対策」、「貧困世帯の子どもに対しての支援」等の課題に重点的に取り組むとともに、地域に向けて「住民による見守りや支え合い活動への支援」、「気軽に何でも相談できる窓口の充実」、「福祉活動や福祉サービスに関する情報の発信」等を行い、地域福祉を積極的に推進してまいりました。

しかし、令和2年（2020年）1月からの新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、行動制限や活動自粛などがなされたことで、地域福祉活動や学校・公民館との連携に関する取り組みについて十分な活動ができない状況が見られました。コロナ禍で活動を推進するためには、どのような工夫や対策が必要となるか、引き続き、検討して対応する必要があります。

その他、収入が減少したことによる生活の不安定さから生活資金の貸付件数の増加、世帯構成の変化による社会的孤立、ひきこもりや子どもの貧困といった課題など、ニーズが多様化・複雑化している状況も見られており、相談支援体制をより一層強化する必要があります。

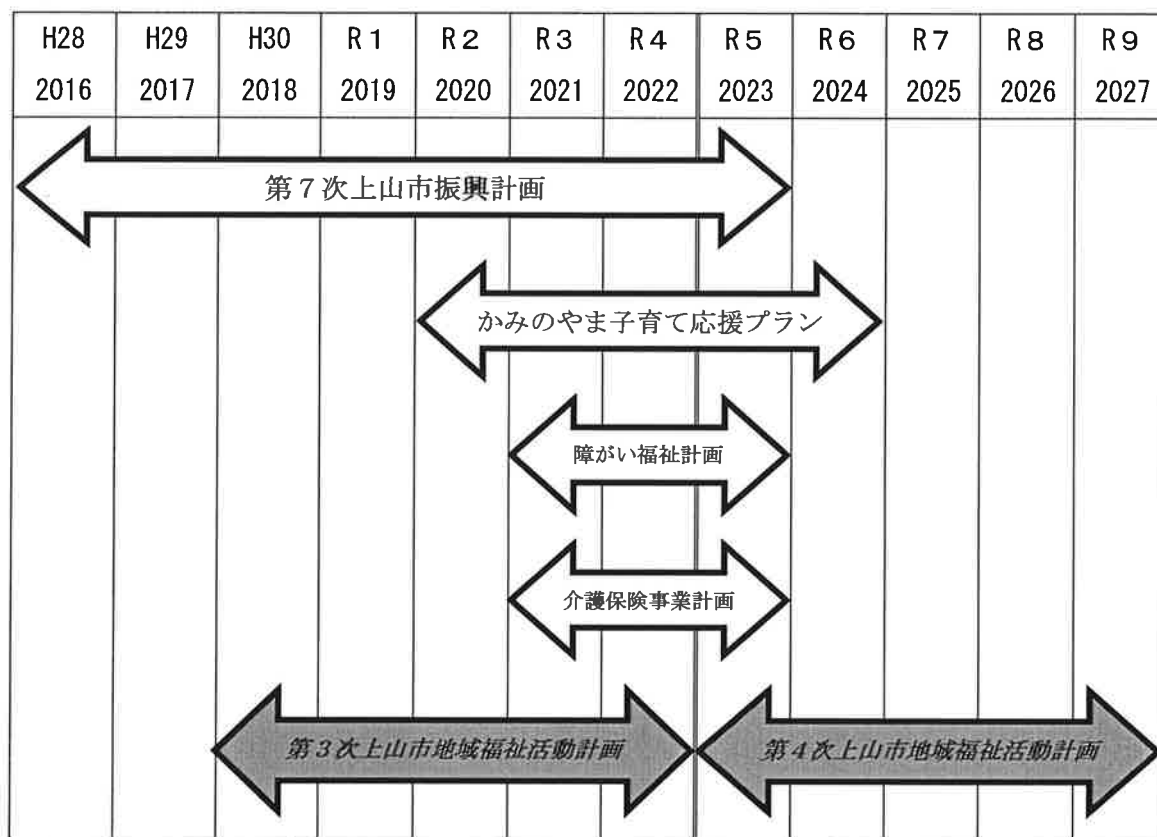
第4次上山市地域福祉活動計画においても、第3次上山市地域福祉活動計画を踏襲して、「ささえあう」、「はぐくむ」、「つながる」を基本目標に掲げ、市民やボランティア、関係機関・団体、行政等の参加のもと、連携・協働し地域福祉を推進してまいります。

2. 計画の期間

計画の期間は、令和5年度（2023年度）～令和9年度（2027年度）までの5年間となります。

計画の位置付けは、市の基本計画である第7次上山市振興計画における福祉施策や、各分野の計画との調和や連携を考慮して、地域福祉の推進を図るものとします。

計画の実効性を確保するため、関係する行政担当課や地域関係団体、社会福祉関係機関等が互いに連携して計画を推進できるよう努めるほか、進行管理を適切に行い、社会情勢や国、県、市等の行政施策の変化により必要に応じて見直しを図り、新たな課題にも柔軟に対応するものとします。



3. 計画の策定と実行

計画を策定するにあたり、地区会長、民生委員・児童委員、公民館、福祉団体、社会福祉施設、ボランティア、行政関係者、福祉関係機関、学識経験者の17名で構成された「上山市地域福祉活動計画策定委員会」を設置し、4回にわたり協議・検討を重ねてきました。

また、地域におけるニーズ把握や現状と課題、地域での取り組み等を把握するため、市民、民生委員・児童委員、主任児童委員、上山市社会福祉法人等連絡協議会にアンケートや上山市地域特性調査を実施して、幅広く意見等を聞き、その結果を反映させながら、策定作業を進めてきました。

第4次上山市地域福祉活動計画では、目標達成のために計画を実行、確認、評価してまいります。

第2章 地域福祉活動をめぐる現状と課題

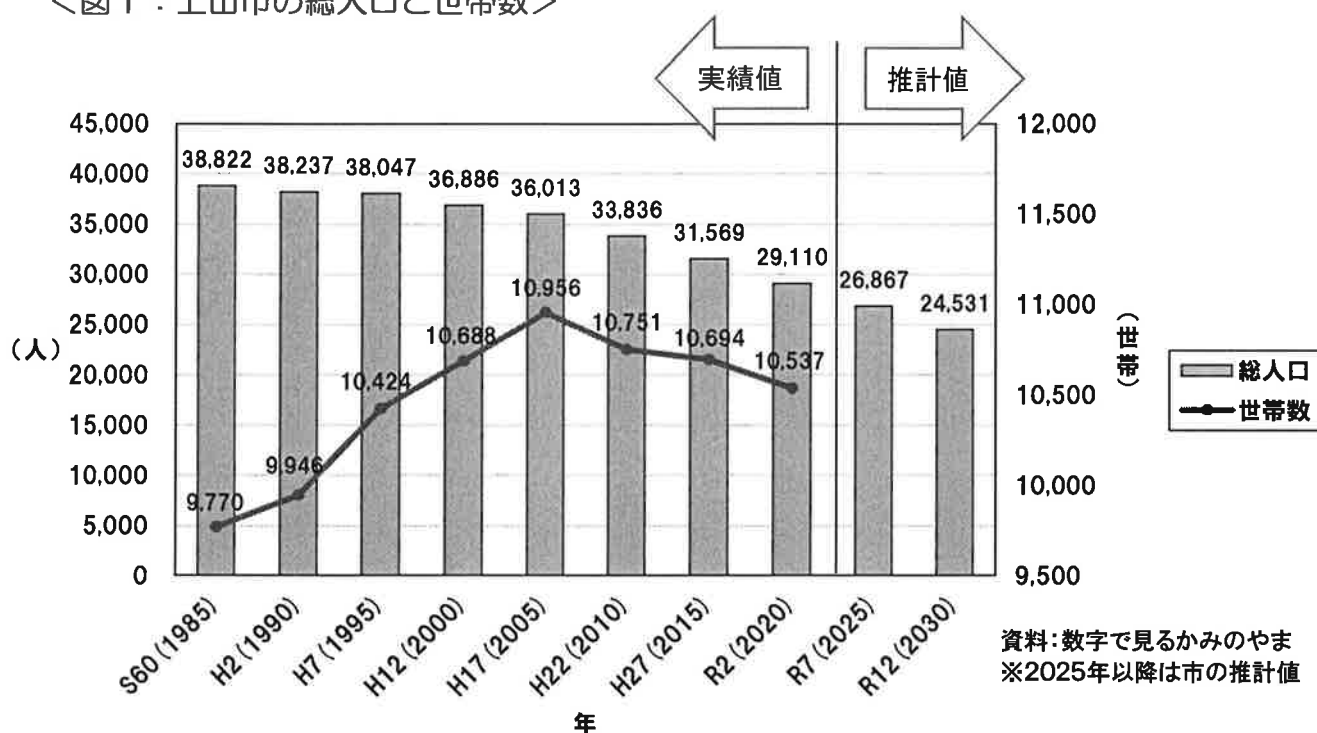
1. 上山市の現状

上山市の総人口は昭和35年の約40,000人をピークとして減少傾向であり、令和2年は29,110人で、今後も減少傾向が続くと推計されています。世帯数は、人口が減少する中でも増加していましたが、平成17年以降は人口とともに減少しています。

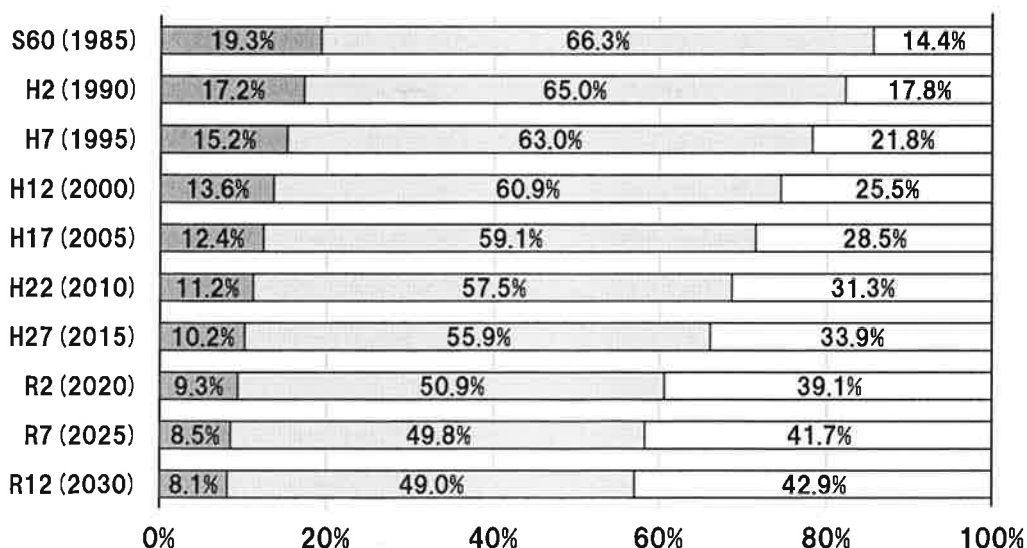
3階層別人口構成比では、65歳以上の老年人口が増加している一方、15歳未満の年少人口の減少が顕著であり、少子高齢化がより進行しています。

今後も人口減少や少子高齢化により、地域の担い手不足やコミュニティの共助機能の低下など、地域生活課題を解決する力が弱まり、地域生活に大きく影響することが懸念されます。

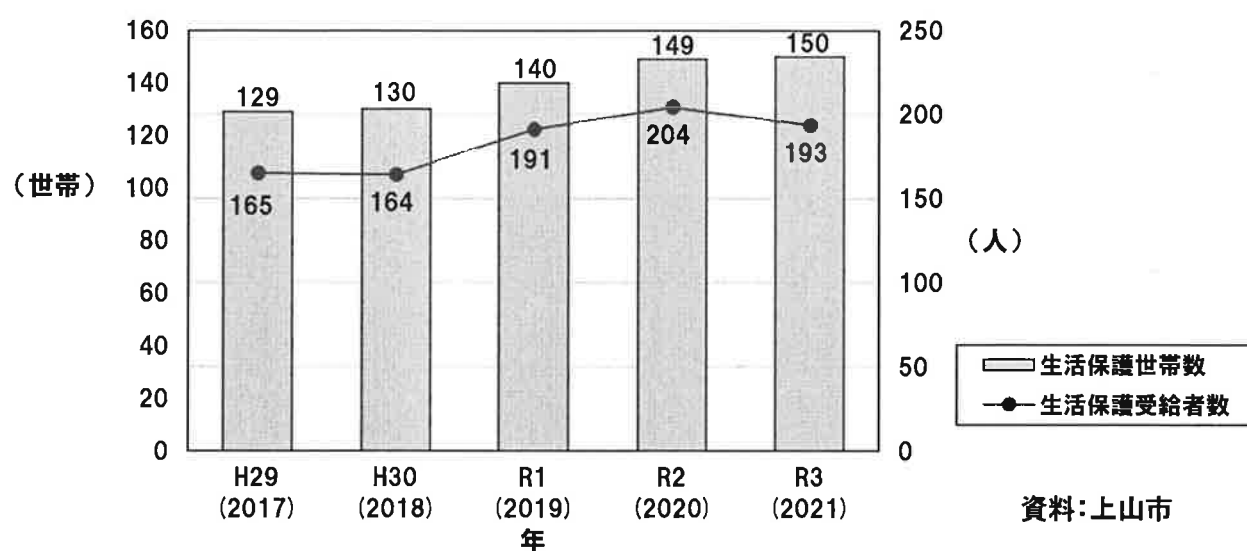
＜図1：上山市の総人口と世帯数＞



＜図2：上山市の3階層別人口構成比の推移＞

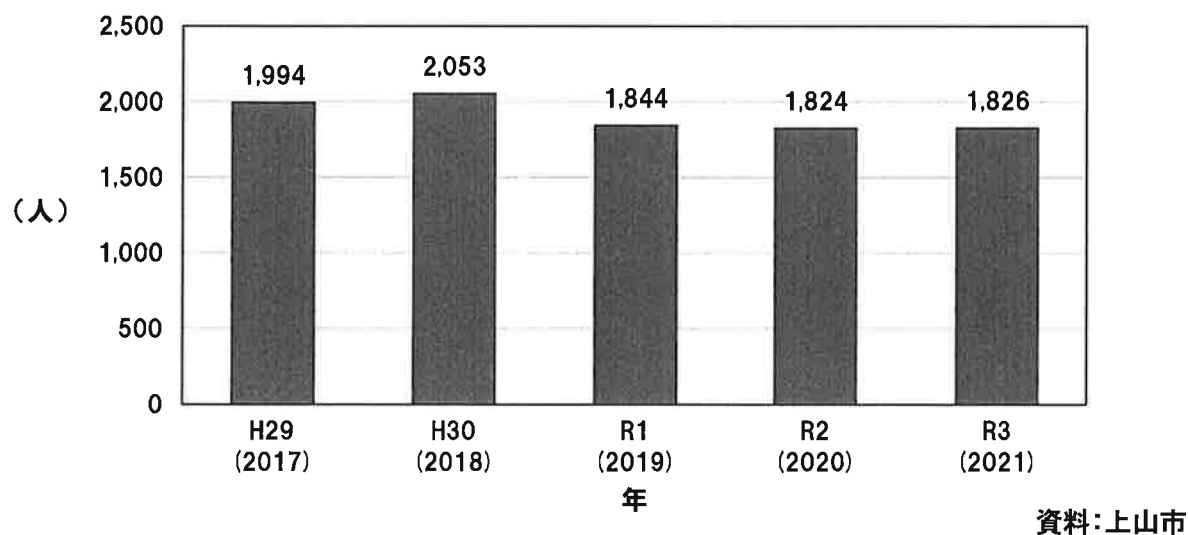


<図3：生活保護世帯数及び生活保護受給者数>



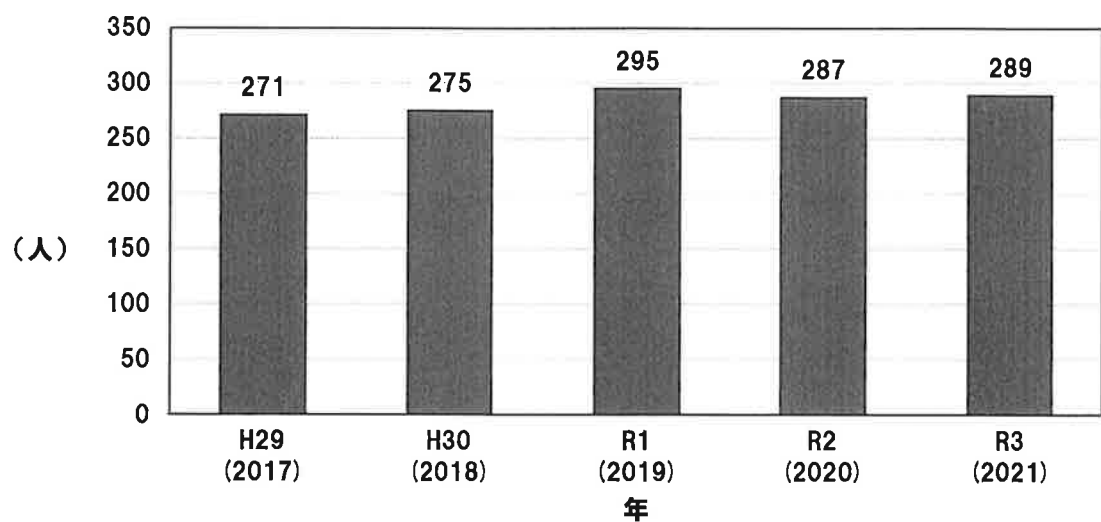
本市の生活保護世帯数は増加傾向にありますが、生活保護受給者数は令和2年（2020年）から減少しています。

<図4：身体障がい者手帳交付者数>



本市の身体障がい者手帳交付者数は、令和3年（2021年）に1,826人となり、令和元年（2019年）から概ね横ばいに推移しています。

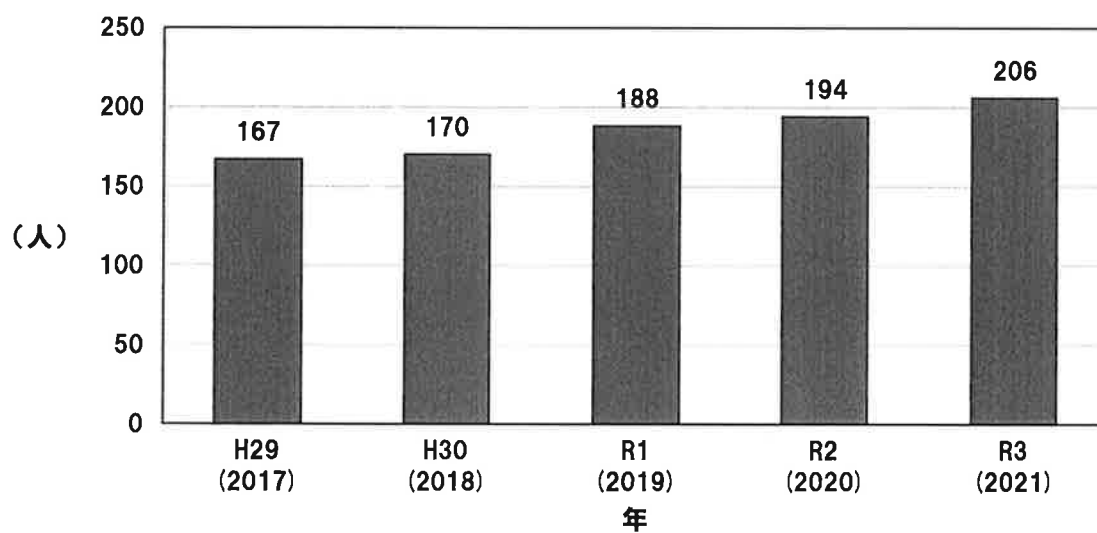
＜図5：知的障がい者療育手帳交付者数＞



資料：上山市

本市の知的障がい者療育手帳交付者数は、令和3年（2021年）に289人となり、過去5年間を見ても、概ね横ばいに推移しています。

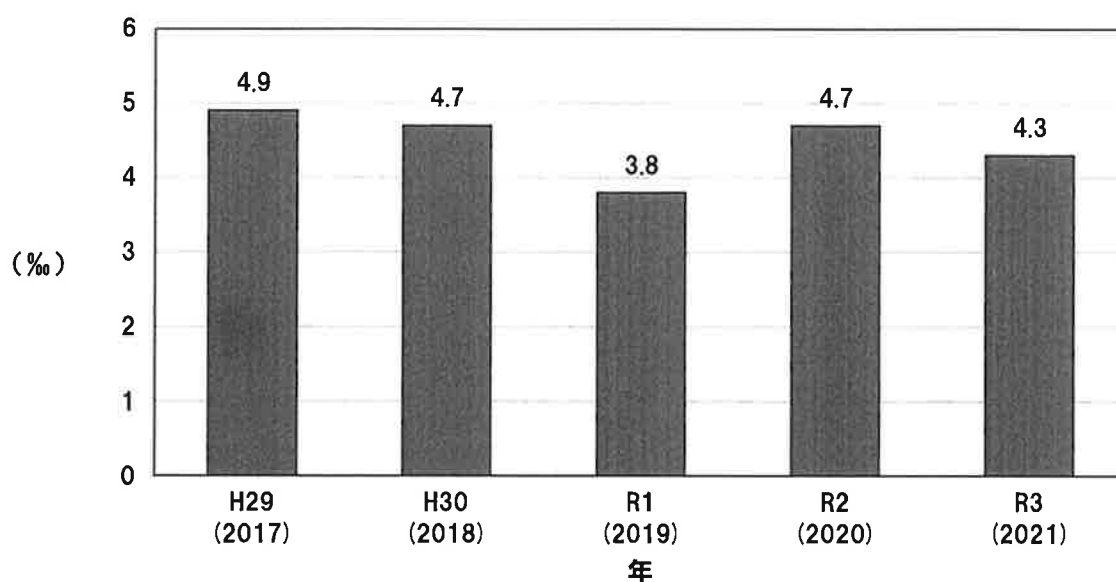
＜図6：精神障がい者手帳交付者数＞



資料：上山市

本市の精神障がい者手帳交付者数は、令和3年（2021年）に206人となり、過去5年間を見ても、増加傾向にあります。

＜図7：出生率＞



資料：山形県みらい企画創造部「山形県の人口と世帯数」

本市の出生率（その年に生まれた人口 1,000 人あたりの出生数）は、令和 3 年（2021 年）に 4.3‰ となり、令和 2 年（2020 年）と比較して 0.4‰ 減少しています。

＜介護保険の要介護認定状況（上山市）＞

（単位：人）

区分	H29 (2017)	H30 (2018)	R1 (2019)	R2 (2020)	R3 (2021)
総人口	31,018	30,599	30,131	29,665	29,417
65 歳以上人口	11,227	11,381	11,448	11,440	11,501
要介護認定者数	2,397	2,412	2,486	2,424	2,385
要介護認定率	20.9%	20.9%	21.4%	20.8%	20.3%

資料：上山市 ※各年度4月1日現在

2. 上山市における地域福祉の現状と課題

本市は、地域に根差した福祉活動を展開していく母体として、より身近な地区会を単位に市内各地区で「地区福祉連絡会」を昭和 62 年度から組織しており、各地区で創意と工夫を行いながら福祉活動が展開されています。

「地区福祉連絡会」の活動を推進することにより、日頃から顔の見える関係にある住民同士が、地域福祉活動を通じて、身近な課題に柔軟に対応する共助の意識の醸成が図られており、地区によっては老人クラブや子ども育成会などの団体やグループにより、地域住民同士による交流活動やボランティア活動等も行われています。

しかし、少子高齢化や核家族化、生活形態や価値観の多様化、人口減少に伴い世帯数も減少傾向にあることや、新型コロナウイルス感染症拡大の影響による行動制限や地域活動の自粛などを背景に、各地区での取り組みに差異が生じております。地域活動が行われている地区もある一方で、地区住民の減少や相互のつながりが弱くなるにつれて、「地区会自体の運営や活動に制限がある」、「担い手が足りない」などの状況も見られています。

また、子どもの出生率の減少や、一人暮らし高齢者世帯数、高齢者夫婦世帯数の増加や介護認定者数、認知症高齢者数が増加傾向にあり、一部の地区によっては、高齢化率（地区の総人口における 65 歳以上が占める割合）が 50%を超えている地区もあり、今後、地区自体を維持していくことが難しくなることも懸念されます。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響による社会経済活動の変化において、休業や廃業に伴う収入減少により、生活に困窮する人や地域社会で孤立する人の増加、若い世代の結婚や出産・子育て環境などにも大きく影響することが懸念されています。

この度、第 4 次上山市地域福祉活動計画策定にあたり、市民及び民生委員・児童委員、主任児童委員、上山市社会福祉法人等連絡協議会にアンケートを実施しました。そのなかで、日常生活面における地域生活課題としては「除雪」、「ゴミ出し」、「簡単な修理」などに困っている回答が多く出されました。また、今後、本会が行う地域福祉の活動や支援として充実する必要があると思われる項目につきましては、「住民による見守りや支え合い活動への支援」、「気軽に相談できる相談窓口の充実」、「市内福祉施設と地域住民とが交流できる関係づくり」の回答が多く出されており、充実を図る必要があることを認識できました。

住み慣れたこの上山で安心して暮らし続けることができることは、誰もが願うことです。しかし、多様化・複雑化した課題を抱えながら日常生活を送らざるを得ない方もおり、1つの機関だけで課題を解決することが困難な事例も散在してきており、包括的な相談支援体制をいかに構築するかという視点も重要となっています。

このような中、住み慣れたまちで安心して暮らし続けることができること、私たち市民同士のつながりを強め深めていくこと、地域全体でささえあっていくしくみづくりが、今求められています。

3. 上山市地域特性調査の報告

本会では、地域共生社会の実現に向けた取り組みの一環として、上山市における地域の特性を明らかにすることを目的に、地域の現状の分析と課題を把握する地域特性調査を、東北福祉大学の協力を得て実施してまいりました。

調査対象者は、各地区の会長、地区役員、民生委員・児童委員、地域福祉活動の関係者等で、調査方法は、半構造化面接法を用いて、1対1のインタビュー形式となっています。

平成30年度に開始し、令和4年度までに、上山市内64地区へ調査をさせていただき、地域の現状の分析と課題の把握を行ってまいりました。今後も市内全地区へ継続して調査を行いますが、これまで実施した地区においての地域生活課題を抜粋いたしました。

地区における主な地域生活課題

- ・ 少子高齢化に伴い、地域行事の減少があり、活動の継続が懸念される。
- ・ 公民館がないので、地区民で集まる場所がない。
- ・ 昔のような近所付き合いが希薄化している。
- ・ 個人情報保護法に伴い、世帯状況など把握できないことがあるため、関わりが難しい。
- ・ 地区会長が1年で交代となることから、地域の困りごとを共有できていない。
- ・ 一人暮らしの高齢者に対する福祉的対策などが地区として取り組まれているものの、具体的な対策や将来のイメージが沸かず、現状維持に努めるなどの不安を感じている。
- ・ 一人暮らし高齢者の買い物支援などは、大変になっている。
- ・ 日常生活の中で、除雪作業や交通の便で不安を感じている住民が多くいる。
- ・ ゴミに関する問題や鳥獣被害、空き家問題など、環境面などについて、不安がある。

地域間格差が大きく、地域性は多様にあります。市内全域で共通であげられる課題としては、少子高齢化や人口減少、過疎化に伴い地域活動に関して何らかの不安感を抱えていることです。また、地区役員の高齢化に伴い地区の役員のなり手や担い手がいらない、活動への参加者も固定化されている、住民の地域活動への理解度にばらつきがある、地域行事を開催したとしても会場までの移動手段がない等といった課題も多くあげられています。

その他、単位の地域では活動できないため、隣接する地域と協力して活動している地域も見られました。

地域活動に対しての考え方においては、現状維持を考えている地域と見直しを考えている地域に分かれておりましたが、地域活動の担い手減少と地区会費の減収によって、活動を維持することが困難な地域も少なくない状況にありました。しかし、そういった状況下でも、現状や課題を受け止め、前向きに出来ることに取り組んでいこうとしている地域もあることを認識することが出来ました。

以上のような地域の様々な状況を踏まえ、本会も地域住民と共に地域福祉課題に対し真摯に向き合い地域活動の支援を行うため、調査で出された課題について、本計画策定へ反映してまいります。

4. 第4次上山市地域福祉活動計画策定に関するアンケート結果

(1) アンケートの目的

このアンケートは、上山市社会福祉協議会が策定する第4次上山市地域福祉活動計画の基礎資料とするため、現在の市内全地区における地域福祉の現状と課題の把握と、今後の地域福祉を推進するための方向性を明らかにすることを目的に実施する。

(2) 実施主体

社会福祉法人上山市社会福祉協議会

(3) アンケートの対象者

① 市民アンケート

市内在住で20歳以上の方

② 民生委員・児童委員、主任児童委員アンケート

市内の民生委員・児童委員、主任児童委員

③ 上山市社会福祉法人等連絡協議会アンケート

市内の上山市社会福祉法人等連絡協議会に加入している事業所

(4) アンケートの方法

①②③いずれも、対象者を抽出し、質問紙を配布して郵送等により回収を行いました。

(5) アンケート実施期間

令和4年7月8日から令和4年8月12日まで

(6) アンケート回収状況

① 市民アンケート

配布枚数 650 枚 回答枚数 507 枚 回収率 78.0%

② 民生委員・児童委員、主任児童委員アンケート

配布枚数 86 枚 回答枚数 62 枚 回収率 72.1%

③ 上山市社会福祉法人等連絡協議会アンケート

配布枚数 29 枚 回答枚数 19 枚 回収率 78.0%

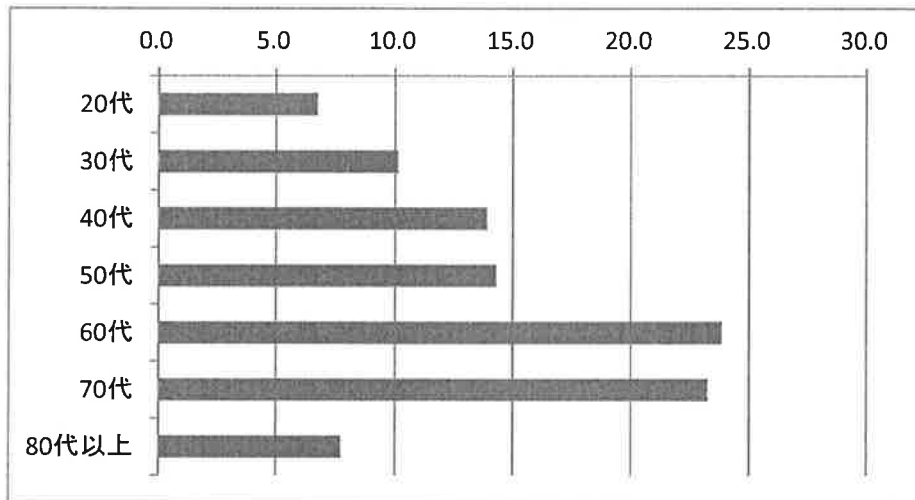
(7) アンケート結果の集計

東北福祉大学 総合福祉学部 都築光一教授及び東北福祉大学 総合福祉学部 佐藤英仁准教授より集計いただきました。

「第4次上山市地域福祉活動計画」策定のための市民アンケート

問1 あなたの年代をお答えください。

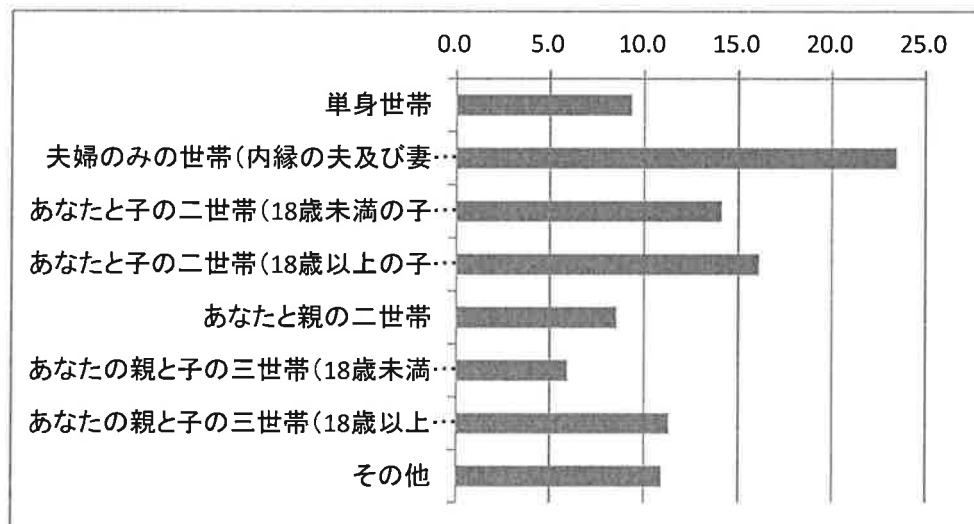
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	20代	34	6.8
2	30代	51	10.1
3	40代	70	13.9
4	50代	72	14.3
5	60代	120	23.9
6	70代	117	23.3
7	80代以上	39	7.8
	無回答・無効	0	0.0
	合計	503	100.0



問2 あなたの世帯構成は次のうちどれにあてはまりますか。

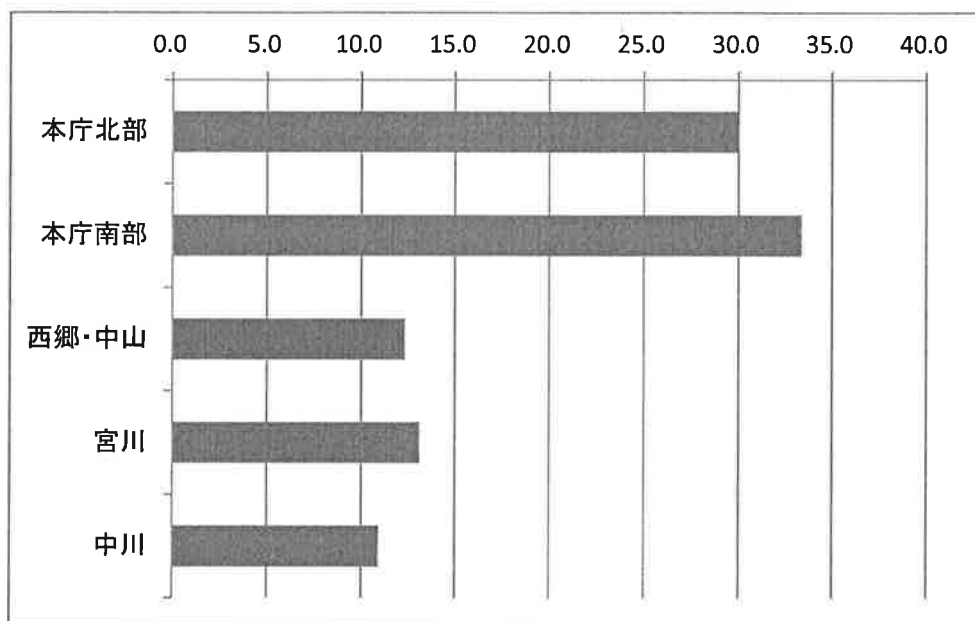
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	単身世帯	47	9.3
2	夫婦のみの世帯(内縁の夫及び妻を含む)	118	23.5
3	あなたと子の二世帯(18歳未満の子ども)	71	14.1
4	あなたと子の二世帯(18歳以上の子ども)	81	16.1
5	あなたと親の二世帯	43	8.5
6	あなたの親と子の三世帯(18歳未満の子ども)	30	6.0
7	あなたの親と子の三世帯(18歳以上の子ども)	57	11.3
8	その他	55	10.9
	無回答・無効	1	0.2
	合計	503	100.0

(注)「あなた」には配偶者も含む。配偶者がいるため「その他」を選択したサンプルは修正した。
ただし、夫婦と子の世帯で子が18歳以上かが判断できない場合は「その他」とした。



問3 あなたがお住いの地区をお答えください。

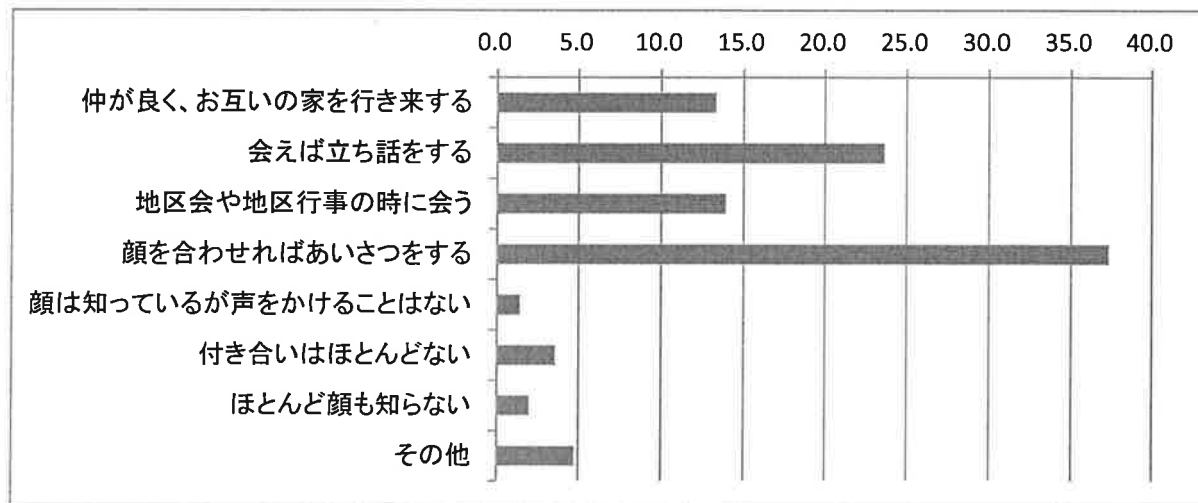
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	本庁北部	151	30.0
2	本庁南部	168	33.4
3	西郷・中山	62	12.3
4	宮川	66	13.1
5	中川	55	10.9
	無回答・無効	1	0.2
	合計	503	100.0



問4 あなたは、地域の方とどのような付き合いをしていますか。

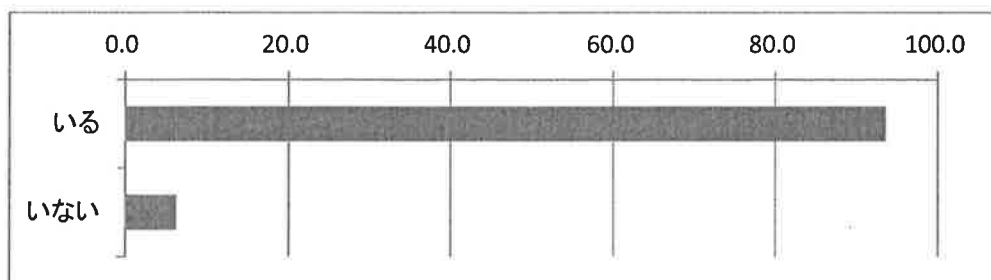
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	仲が良く、お互いの家を行き来する	67	13.3
2	会えば立ち話をする	119	23.7
3	地区会や地区行事の時に会う	70	13.9
4	顔を合わせればあいさつをする	188	37.4
5	顔は知っているが声をかけることはない	7	1.4
6	付き合いはほとんどない	18	3.6
7	ほとんど顔も知らない	10	2.0
8	その他	24	4.8
	無回答・無効	0	0.0
	合計	503	100.0

(注) 当設問は複数回答を許可していないが、複数回答は「その他」に加えている。



問5 あなたが困った時に、手助けをしてくださる方がいますか。

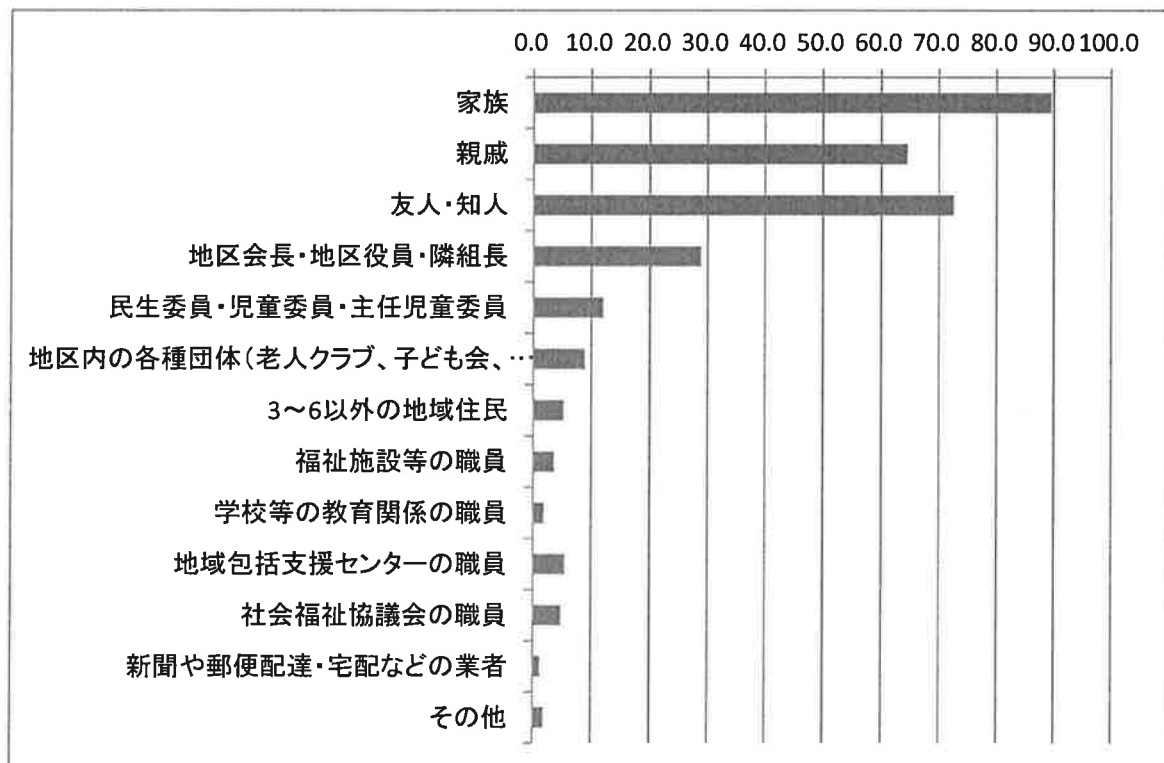
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	いる	471	93.6
2	いない	32	6.4
	無回答・無効	0	0.0
	合計	503	100.0



問6 問5で「1. いる」と回答した方にお聞きします。あなたが困った時に手助けして下さるのはどのような方ですか。(複数回答可)

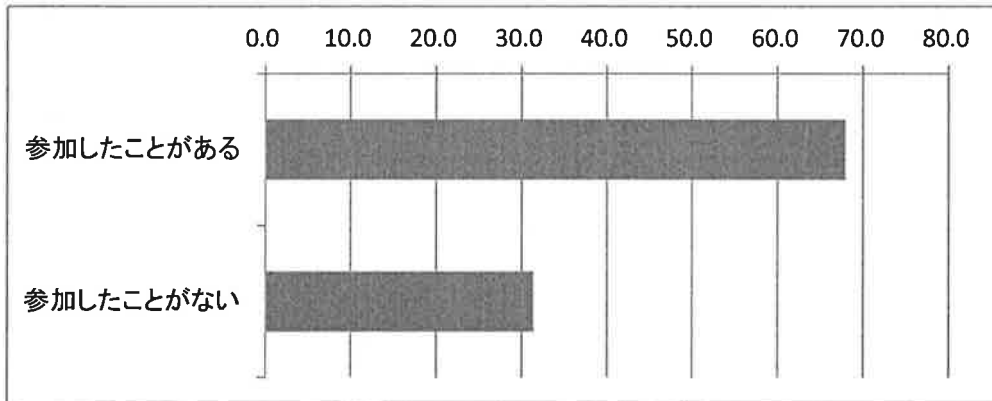
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	家族	422	89.6
2	親戚	304	64.5
3	友人・知人	342	72.6
4	地区会長・地区役員・隣組長	136	28.9
5	民生委員・児童委員・主任児童委員	57	12.1
6	地区内の各種団体(老人クラブ、子ども会、婦人団体、サロン活動等)	42	8.9
7	3～6以外の地域住民	25	5.3
8	福祉施設等の職員	17	3.6
9	学校等の教育関係の職員	9	1.9
10	地域包括支援センターの職員	26	5.5
11	社会福祉協議会の職員	23	4.9
12	新聞や郵便配達・宅配などの業者	6	1.3
13	その他	9	1.9
	合計	471	100.0

(注) 合計は本調査の回答者471であり、これを分母に割合は算出している。



問7 あなたは過去3年間で地域活動(地区会、老人クラブ等の行事・活動)等への参加をしたことがありますか。

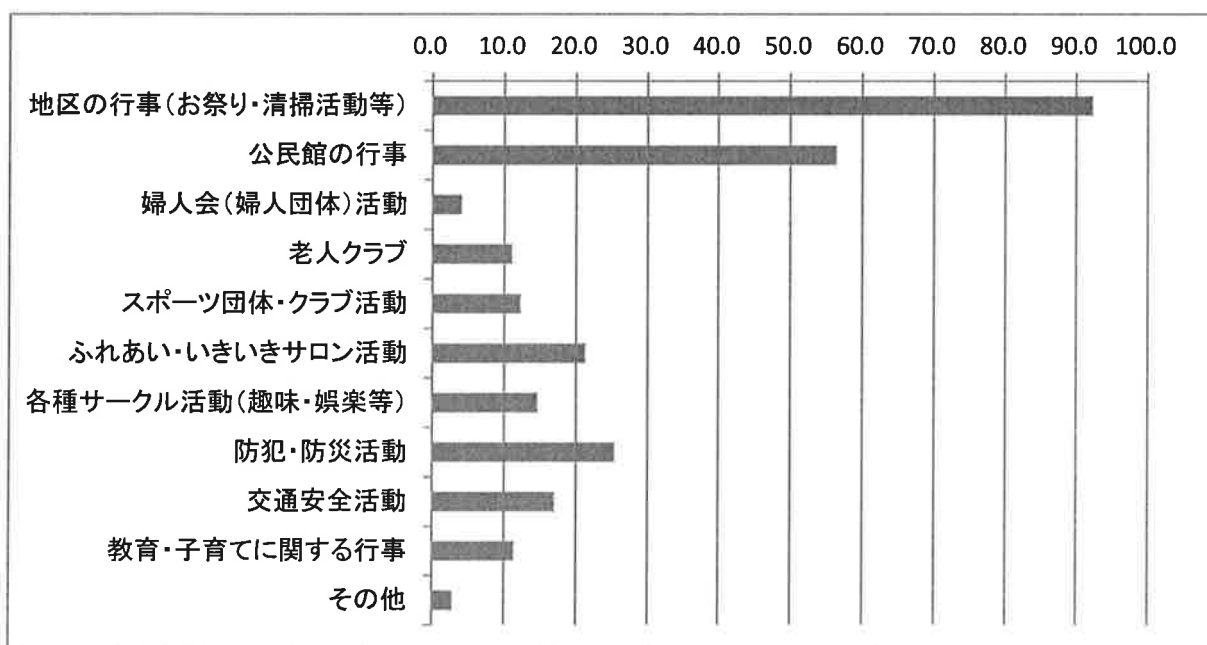
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	参加したことがある	342	68.0
2	参加したことがない	158	31.4
	無回答・無効	3	0.6
	合計	503	100.0



問8 問7で、「1. 参加したことがある」と回答した方にお聞きします。それはどのような活動ですか。(複数回答可)

番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	地区の行事(お祭り・清掃活動等)	316	92.4
2	公民館の行事	193	56.4
3	婦人会(婦人団体)活動	14	4.1
4	老人クラブ	38	11.1
5	スポーツ団体・クラブ活動	42	12.3
6	ふれあい・いきいきサロン活動	73	21.3
7	各種サークル活動(趣味・娯楽等)	50	14.6
8	防犯・防災活動	87	25.4
9	交通安全活動	58	17.0
10	教育・子育てに関する行事	39	11.4
11	その他	10	2.9
	合計	342	100.0

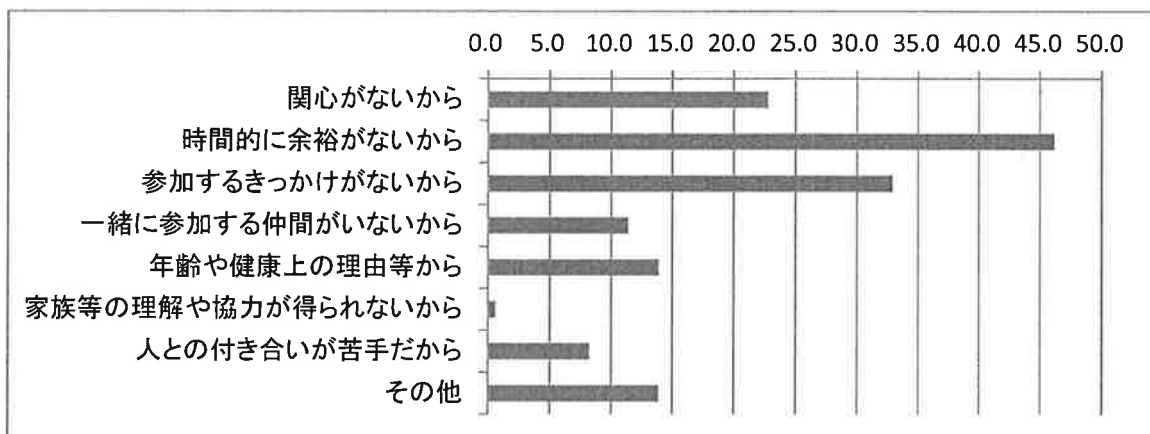
(注) 合計は本調査の回答者342であり、これを分母に割合は算出している。



問9 問7で、「2. 参加したことがない」と回答した方にお聞きします。参加したことがない理由をお聞かせください。(複数回答可)

番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	関心がないから	36	22.8
2	時間的に余裕がないから	73	46.2
3	参加するきっかけがないから	52	32.9
4	一緒に参加する仲間がいないから	18	11.4
5	年齢や健康上の理由等から	22	13.9
6	家族等の理解や協力が得られないから	1	0.6
7	人との付き合いが苦手だから	13	8.2
8	その他	22	13.9
	合計	158	100.0

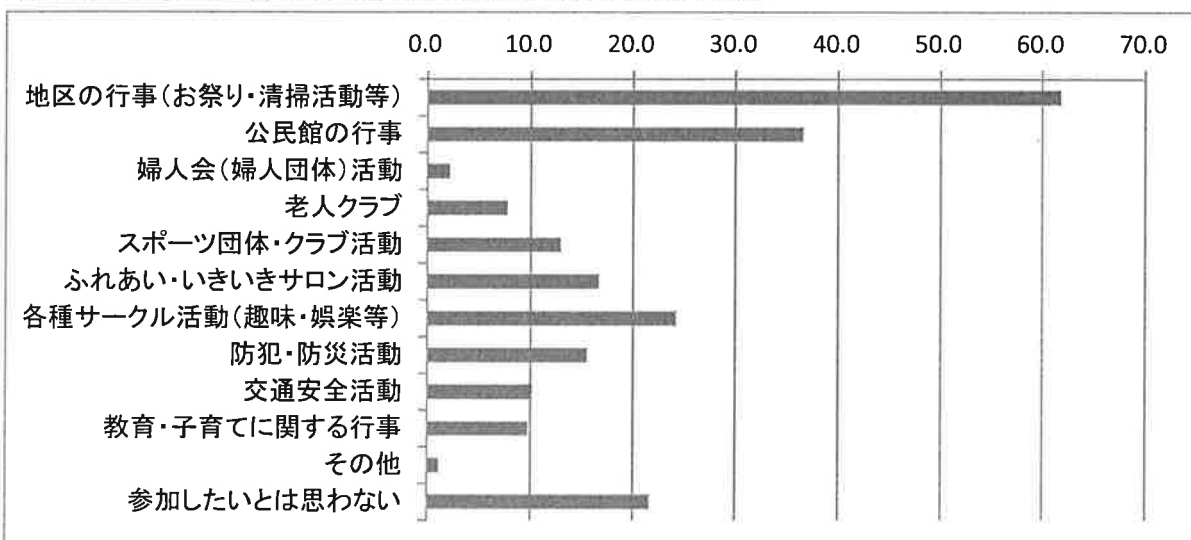
(注) 合計は本調査の回答者158であり、これを分母に割合は算出している。



問10 あなたが住んでいる地域で、今後参加したいことは何ですか。(複数回答可)

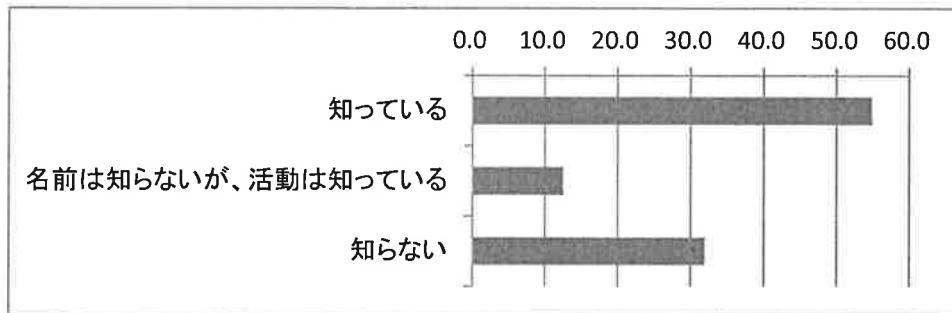
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	地区の行事(お祭り・清掃活動等)	311	61.8
2	公民館の行事	184	36.6
3	婦人会(婦人団体)活動	11	2.2
4	老人クラブ	39	7.8
5	スポーツ団体・クラブ活動	65	12.9
6	ふれあい・いきいきサロン活動	84	16.7
7	各種サークル活動(趣味・娯楽等)	122	24.3
8	防犯・防災活動	78	15.5
9	交通安全活動	51	10.1
10	教育・子育てに関する行事	49	9.7
11	その他	6	1.2
12	参加したいとは思わない	109	21.7
	合計	503	100.0

(注) 合計は本調査の回答者503であり、これを分母に割合は算出している。



- 問11 あなたがお住まいの地区で、地区会の中に福祉的な取り組みや情報交換を行う場として地区福祉連絡会が組織され、隣組長等が「福祉協力員」となって、高齢者の見守りなどの活動が行われていることをご存知ですか。

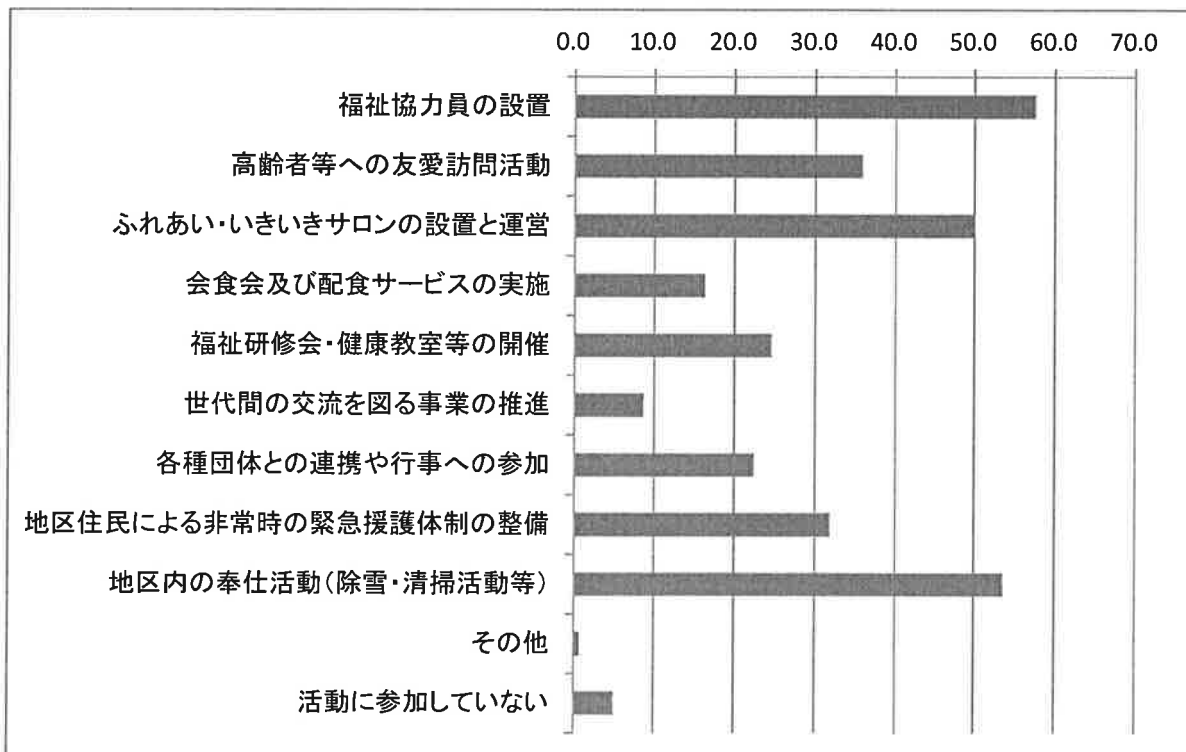
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	知っている	276	54.9
2	名前は知らないが、活動は知っている	63	12.5
3	知らない	161	32.0
	無回答・無効	3	0.6
	合計	503	100.0



- 問12 問11で、「1. 知っている」と回答した方にお聞きます。あなたの地区では、どのような活動をされていますか。(複数回答可)

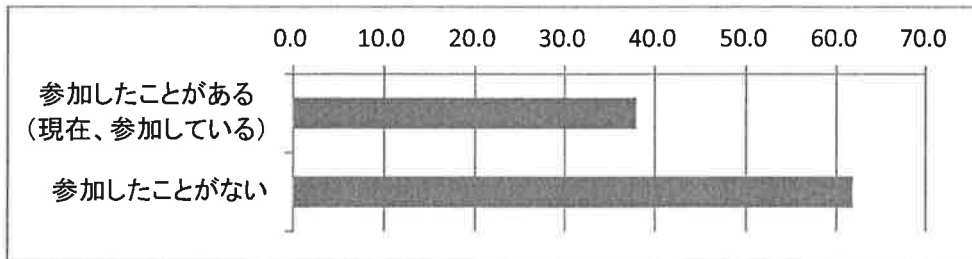
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	福祉協力員の設置	159	57.6
2	高齢者等への友愛訪問活動	99	35.9
3	ふれあい・いきいきサロンの設置と運営	138	50.0
4	会食会及び配食サービスの実施	45	16.3
5	福祉研修会・健康教室等の開催	68	24.6
6	世代間の交流を図る事業の推進	24	8.7
7	各種団体との連携や行事への参加	62	22.5
8	地区住民による非常時の緊急援護体制の整備	88	31.9
9	地区内の奉仕活動(除雪・清掃活動等)	148	53.6
10	その他	2	0.7
11	活動に参加していない	14	5.1
	合計	276	100.0

(注) 合計は本調査の回答者276であり、これを分母に割合は算出している。



問13 過去3年の間で、ボランティア活動に参加したことがありますか。

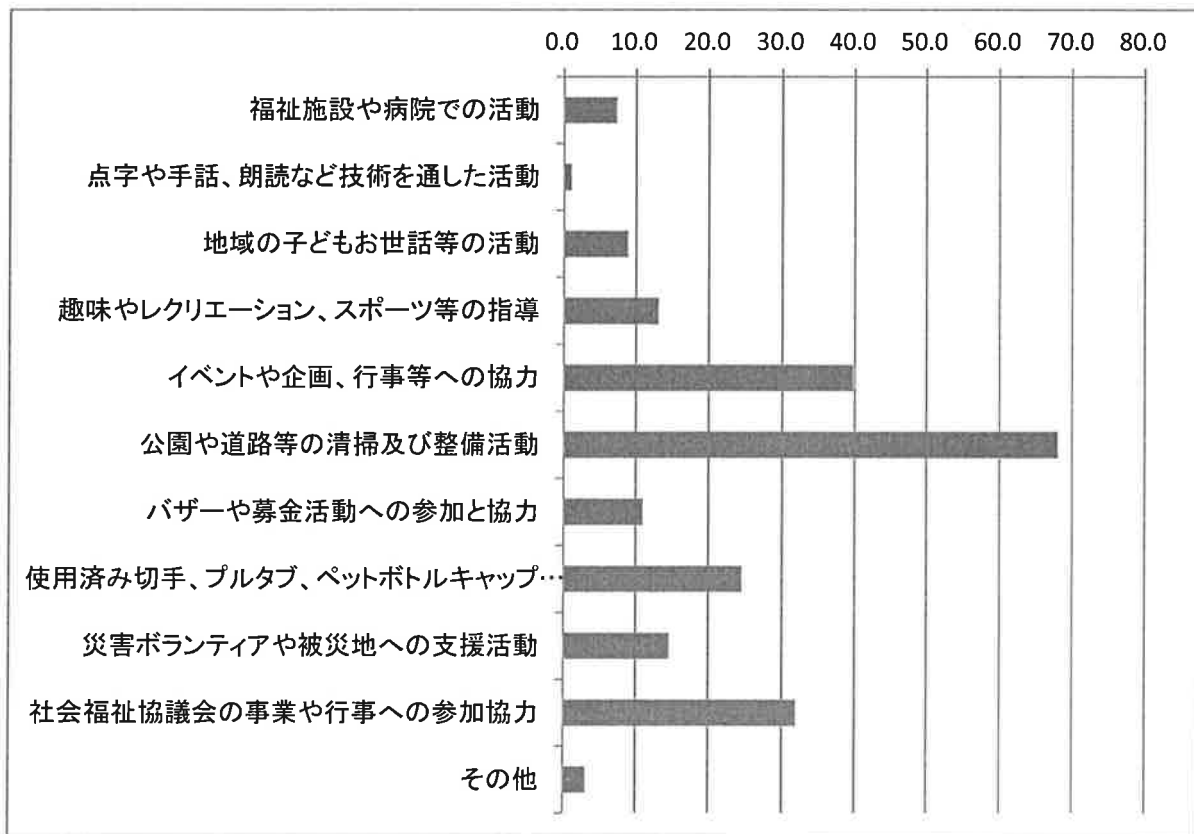
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	参加したことがある (現在、参加している)	191	38.0
2	参加したことがない	311	61.8
	無回答・無効	1	0.2
	合計	503	100.0



問14 問13で、「1. 参加したことがある」と回答された方にお聞きします。参加されたボランティア活動はどのようなものでしたか。(複数回答可)

番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	福祉施設や病院での活動	14	7.3
2	点字や手話、朗読など技術を通した活動	2	1.0
3	地域の子どもお世話等の活動	17	8.9
4	趣味やレクリエーション、スポーツ等の指導	25	13.1
5	イベントや企画、行事等への協力	76	39.8
6	公園や道路等の清掃及び整備活動	130	68.1
7	バザーや募金活動への参加と協力	21	11.0
8	使用済み切手、プルタブ、ペットボトルキャップ等の収集活動	47	24.6
9	災害ボランティアや被災地への支援活動	28	14.7
10	社会福祉協議会の事業や行事への参加協力	61	31.9
11	その他	6	3.1
	合計	191	100.0

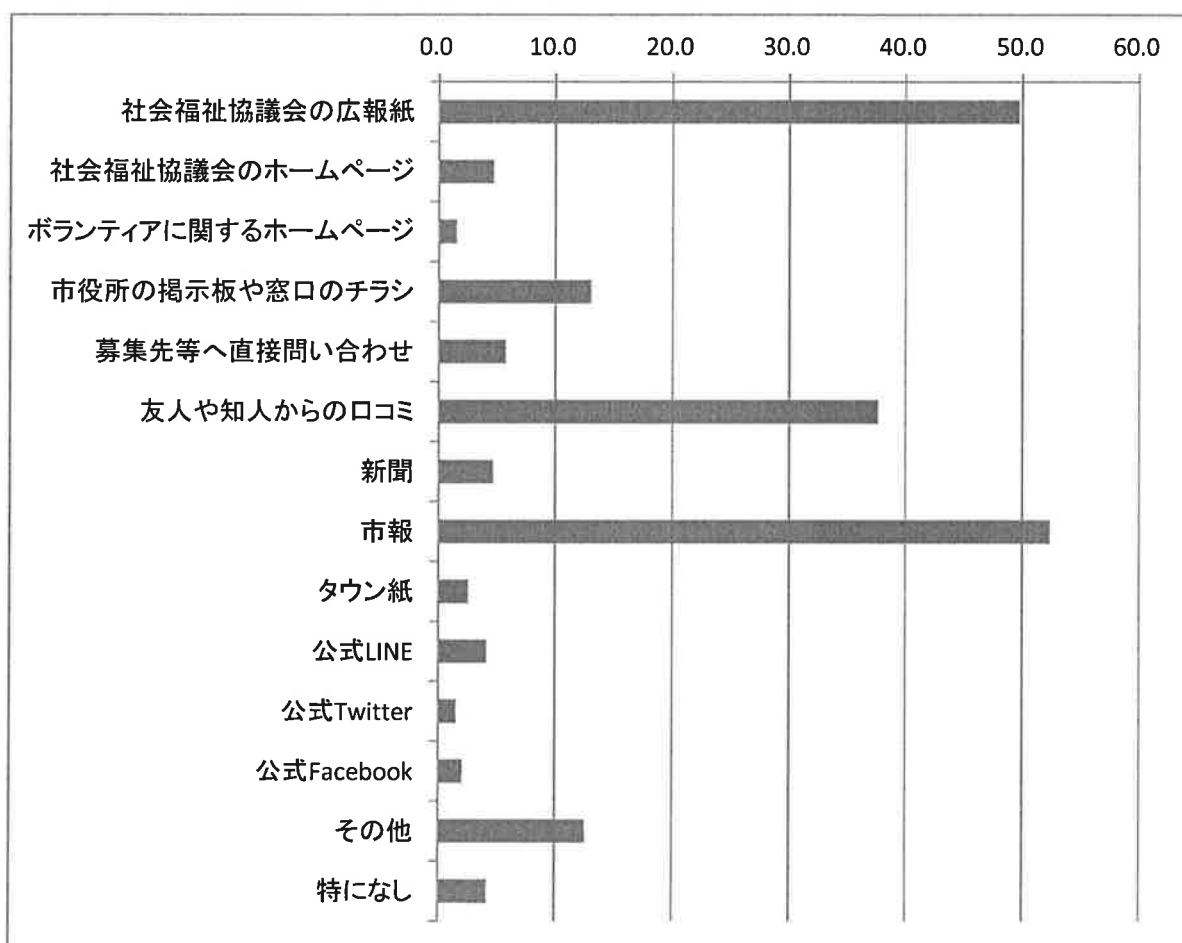
(注) 合計は本調査の回答者191であり、これを分母に割合は算出している。



問15 問13で、「1. 参加したことがある」と回答した方にお聞きします。ボランティア活動をするうえで、情報をどのように調べていますか。(複数回答可)

番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	社会福祉協議会の広報紙	95	49.7
2	社会福祉協議会のホームページ	9	4.7
3	ボランティアに関するホームページ	3	1.6
4	市役所の掲示板や窓口のチラシ	25	13.1
5	募集先等へ直接問い合わせ	11	5.8
6	友人や知人からの口コミ	72	37.7
7	新聞	9	4.7
8	市報	100	52.4
9	タウン紙	5	2.6
10	公式LINE	8	4.2
11	公式Twitter	3	1.6
12	公式Facebook	4	2.1
13	その他	24	12.6
14	特になし	8	4.2
	合計	191	100.0

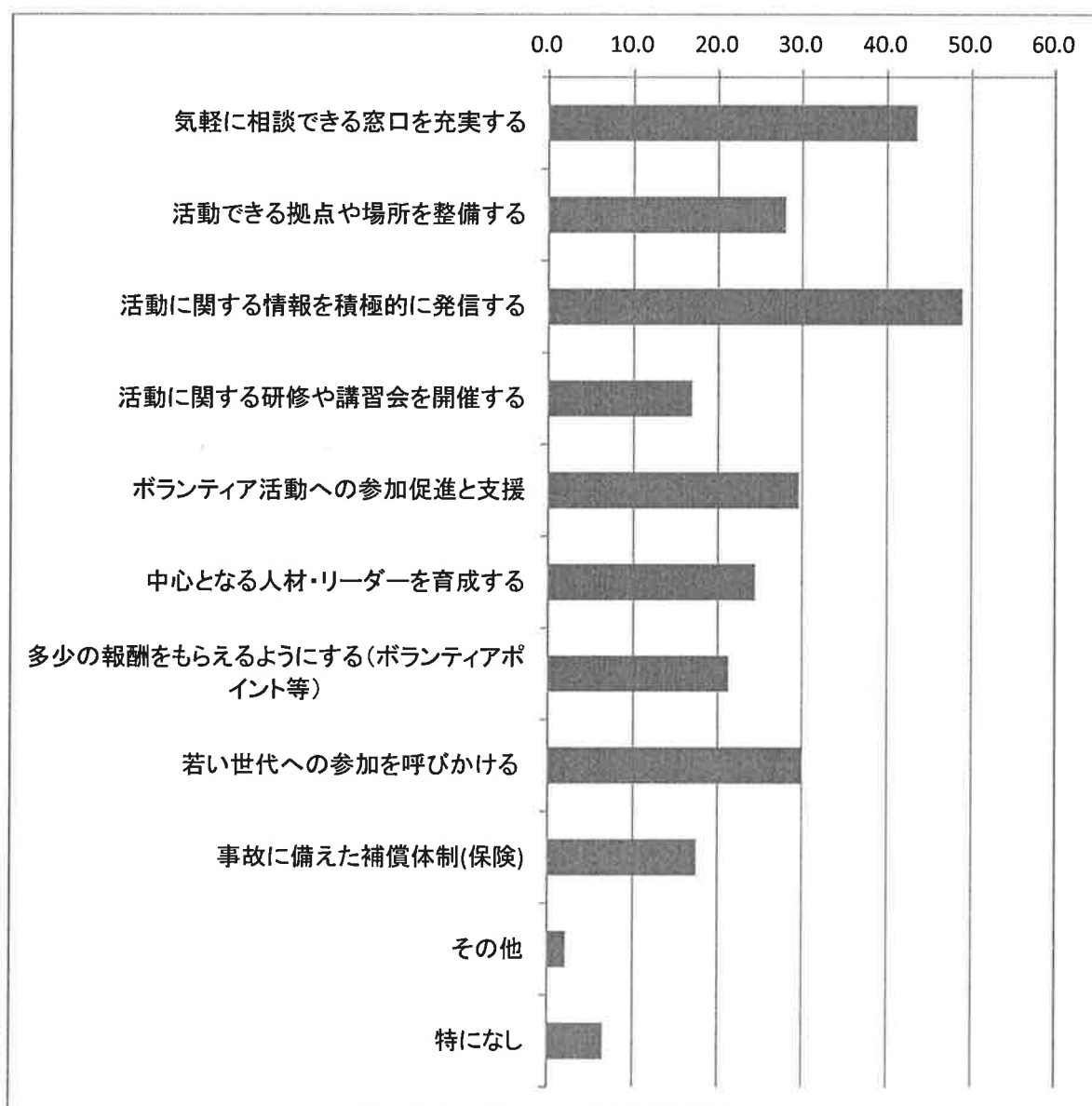
(注) 合計は本調査の回答者191であり、これを分母に割合は算出している。



問16 今後、ボランティア活動への積極的参加を推進するための必要なことはどのようなことだと思いますか。(複数回答可)

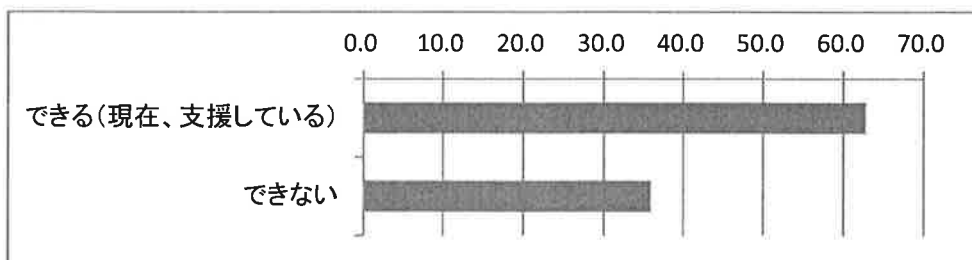
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	気軽に相談できる窓口を充実する	219	43.5
2	活動できる拠点や場所を整備する	141	28.0
3	活動に関する情報を積極的に発信する	246	48.9
4	活動に関する研修や講習会を開催する	85	16.9
5	ボランティア活動への参加促進と支援	149	29.6
6	中心となる人材・リーダーを育成する	123	24.5
7	多少の報酬をもらえるようにする(ボランティアポイント等)	107	21.3
8	若い世代への参加を呼びかける	151	30.0
9	事故に備えた補償体制(保険)	88	17.5
10	その他	11	2.2
11	特になし	33	6.6
	合計	503	100.0

(注) 合計は本調査の回答者503であり、これを分母に割合は算出している。



問17 あなたは、手助けが必要だと思われる人に対して、日常生活の支援をすることができますか。

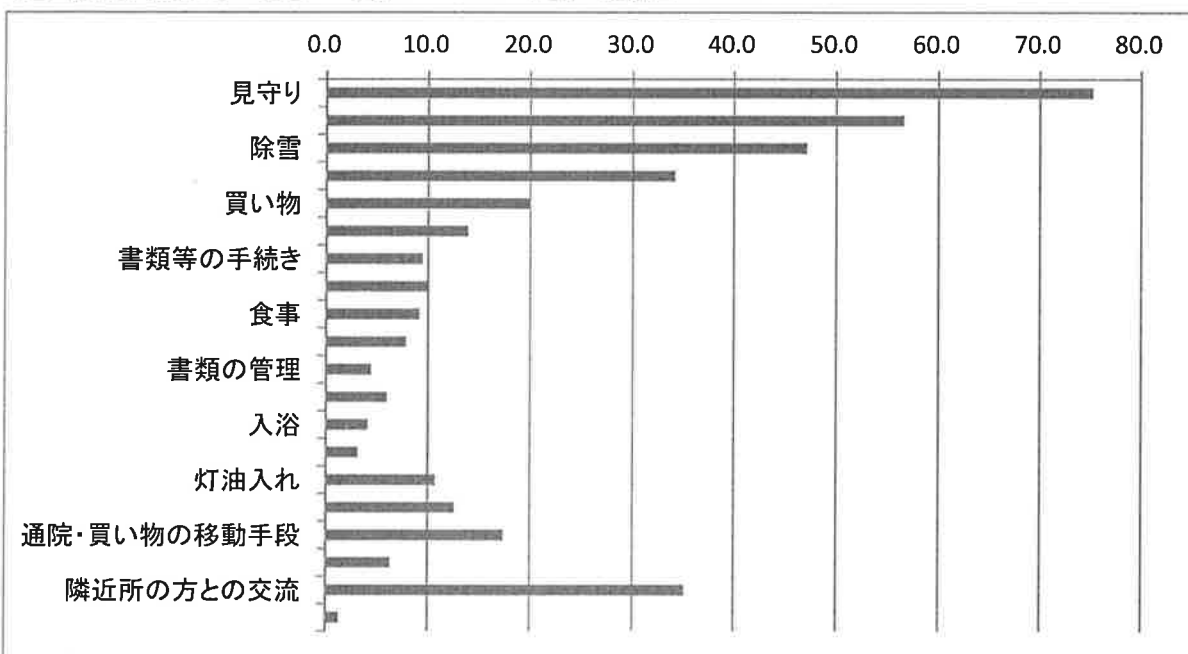
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	できる(現在、支援している)	316	62.8
2	できない	181	36.0
	無回答・無効	6	1.2
	合計	503	100.0



問18 問17で、「1. できる」と回答した方にお聞きします。あなたは、どのような手助けならできると感じていますか。(複数回答可)

番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	見守り	238	75.3
2	話し相手	179	56.6
3	除雪	149	47.2
4	ゴミ出し	108	34.2
5	買い物	63	19.9
6	掃除	44	13.9
7	書類等の手続き	30	9.5
8	洗濯	32	10.1
9	食事	29	9.2
10	整理整頓	25	7.9
11	書類の管理	14	4.4
12	薬の管理	19	6.0
13	入浴	13	4.1
14	お金の管理	10	3.2
15	灯油入れ	34	10.8
16	簡単な修理	40	12.7
17	通院・買い物の移動手段	55	17.4
18	子育て・教育に関すること	20	6.3
19	隣近所の方との交流	111	35.1
20	その他	4	1.3
	合計	316	100.0

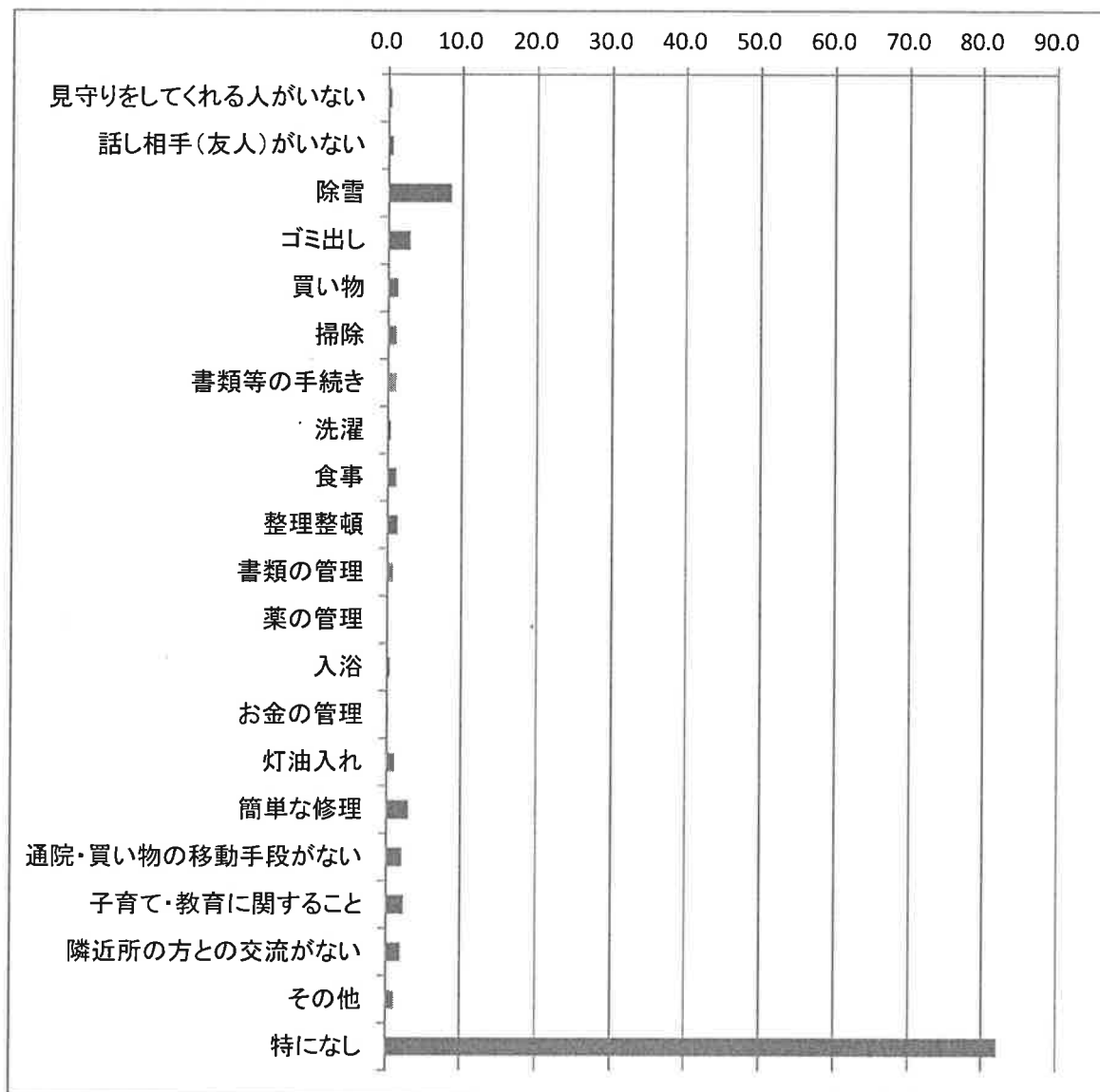
(注) 合計は本調査の回答者316であり、これを分母に割合は算出している。



問19 あなたが日常生活を送る上で、現在お困りのことはどんなことですか。(複数回答可)

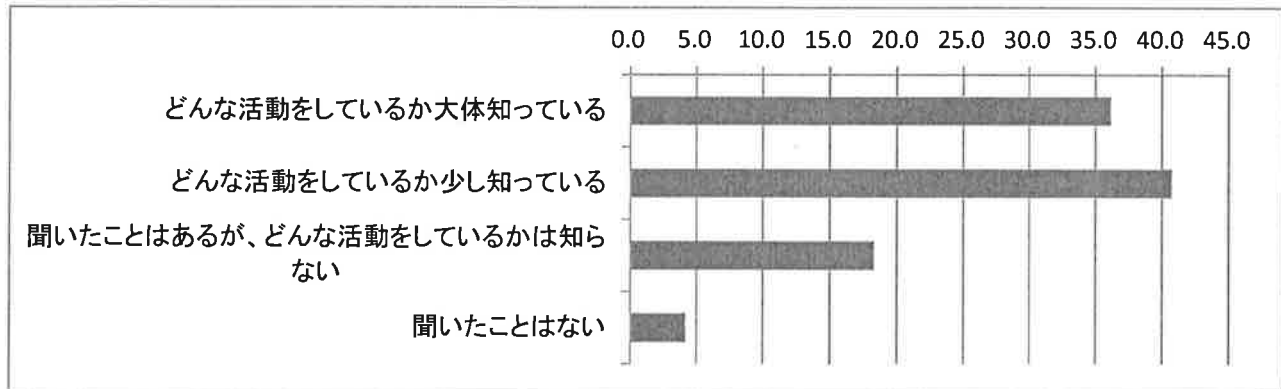
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	見守りをしてくれる人がいない	2	0.4
2	話し相手(友人)がいない	3	0.6
3	除雪	43	8.5
4	ゴミ出し	15	3.0
5	買い物	7	1.4
6	掃除	6	1.2
7	書類等の手続き	6	1.2
8	洗濯	2	0.4
9	食事	6	1.2
10	整理整頓	7	1.4
11	書類の管理	4	0.8
12	薬の管理	0	0.0
13	入浴	2	0.4
14	お金の管理	1	0.2
15	灯油入れ	6	1.2
16	簡単な修理	15	3.0
17	通院・買い物の移動手段がない	11	2.2
18	子育て・教育に関すること	12	2.4
19	隣近所の方との交流がない	10	2.0
20	その他	6	1.2
21	特になし	413	82.1
	合計	503	100.0

(注) 合計は本調査の回答者503であり、これを分母に割合は算出している。



問20 あなたは、地域福祉の推進を図るために諸活動を行っている社会福祉協議会をご存じですか。

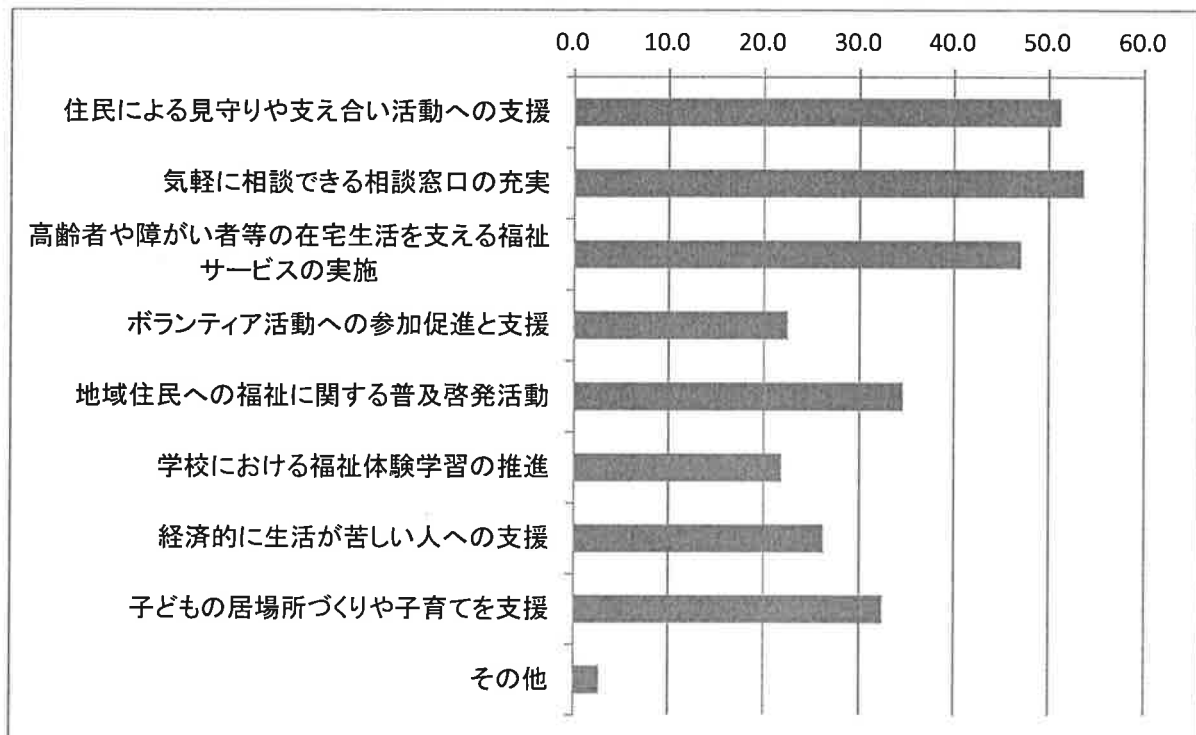
番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	どんな活動をしているか大体知っている	182	36.2
2	どんな活動をしているか少し知っている	205	40.8
3	聞いたことはあるが、どんな活動をしているかは知らない	92	18.3
4	聞いたことはない	21	4.2
	無回答・無効	3	0.6
	合計	503	100.0



問21 上山市社会福祉協議会が行う地域福祉の活動や支援として、今後充実する必要があると思われるものはどれですか。(複数回答可)

番号	項目	実数(人)	割合(%)
1	住民による見守りや支え合い活動への支援	258	51.3
2	気軽に相談できる相談窓口の充実	270	53.7
3	高齢者や障がい者等の在宅生活を支える福祉サービスの実施	237	47.1
4	ボランティア活動への参加促進と支援	113	22.5
5	地域住民への福祉に関する普及啓発活動	174	34.6
6	学校における福祉体験学習の推進	110	21.9
7	経済的に生活が苦しい人への支援	132	26.2
8	子どもの居場所づくりや子育てを支援	163	32.4
9	その他	14	2.8
	合計	503	100.0

(注) 合計は本調査の回答者503であり、これを分母に割合は算出している。



問 22 上山市社会福祉協議会について、ご意見などご自由にお書きください。

社会福祉協議会の事業等についての意見・要望

- ・高齢社会になっている現在、関係する組織や住民による見守り、支え合いだけでなく隣組を中心とした良い人間関係づくりが必要です。また、一人暮らし高齢者の社会参加、隣組・地区とのかかわりができるような体制づくりや、今後ますます増加する単身世帯への対応策を検討していくことが必要です。
- ・高齢者が安全・安心に暮らせる地域づくりをするために、社協及び地域住民がそれぞれ役割を分担し、福祉社会づくりを目指していくことが大切です。また、子育て支援についてはどのような支援を社協が担うか、他の関係機関とも連携しながら進める必要があります。
- ・今後高齢者のみならず、子どもへの支援の充実を期待しています。
- ・高齢者の見守りや支援なども、もう少し充実してほしいです。とくに精神疾患のある方などは定期的に見守りをしていただきたいです。
- ・温泉デイサービスの回数をもっと増やしてもらいたいです。
- ・ふれあい・いきいきサロンやふれあい食事サービスなどとてもよい事業だと思います。
- ・ふれあい・いきいきサロン活動への支援やアドバイスをよろしくお願いします。
- ・以前にパソコン教室（ワード・エクセル）に参加しておりましたがパワーポイントの教室の企画をしていただければと思います。
- ・移動できる仕組み（買い物支援、外出支援）を早急に作ってほしいです。
- ・一人親への生活支援として食品、生活用品を配達し安否確認と生活の困りごと、悩みごとを聴いてほしいです。
- ・夏休みや冬休み、春休みなど学校の長期休業中に各地区の公民館を開放し、児童と高齢者のふれあいの場を設定してほしいです。（宿題の手助けや遊びなどの活動を協働していく等）
- ・年1回ほどで構わないので世帯や世代を超えた楽しい催しを開いてほしいです。
- ・病气（精神も含む）で自宅以外に居場所がない人への支援や居場所づくりをお願いしたいです。
- ・福祉バスを2台体制にしてほしいです。
- ・地域福祉の重要性やそのあり方については概念としては理解していると思いますが、実際の方法やアプローチの仕方などについて息の長い教育や周知が必要と思います。
- ・地区会長と民生委員・児童委員が社協の賛助会員として協賛金を集めなければなりません。各地区の意見を聞き、実態をくみ取っていただきたくお願いいたします。
- ・事業の各称に漢字が多くわかりにくいです。サブネーミングや愛称で呼ばれるようになると親しみやすくなります。
- ・助成金交付申請書及び報告書の記入が煩雑なので、もっと簡単にしてほしいです。
- ・市民がもっと気軽に入ることができて、声をかけやすいような職場環境づくりをお願いします。
- ・社協が実施している活動について具体的に事例を通じて例示してほしいです。
- ・社協の存在が事業等に携わらないと分からないので、情報を発信していったほしいと思います。
- ・SNSを通じて発信するなど若い世代を巻き込むためには工夫が必要です。若い世代にも届くような情報発信を行っていただけると幸いです。
- ・上山でどんな福祉活動をしているのか、具体的に市報とかで教えてほしいです。

- ・ 上山市からの支援を厚くし、社協の必要性をアピールすることが必要です。
- ・ 高齢者が施設に入所するにあたり金銭的に問題が生じてきます。そのため、何らかサポートできるような支援が必要です。
- ・ ボランティア活動に興味があるのですが、知人等のつながりがなければなかなか参加することができません。情報共有の場や誰でも気軽に相談できる窓口があれば嬉しいです。
- ・ 困ったときにまずどこに相談するのか簡単明瞭に分かりやすい様になっていればと思います。相談窓口が早くわかれば相談もしやすいです。
- ・ 市内小中学校、授業等の中に福祉に携わる学習を取り入れてほしい。車いす、目が見えない方の変え、点字、耳が聞こえない方の変え、手話、今の子ども達にも教えてほしいです。
- ・ 地域包括支援センターの場所を何度も変えないでほしい。また、「福祉の窓口」のようなやさしく、分かりやすい表現にしてほしいです。
- ・ 公衆浴場の管理を徹底してほしいです。
- ・ 企業の福利厚生をサポートする健康経営支援プログラムを福祉サービスとして導入を検討してみたいかどうか。
- ・ 賛助会費について良く理解されていないので、主旨、目的をわかりやすくしてほしいです。
- ・ 民生委員・児童委員の方々との連携は大変重要なので、今後も情報交換を積極的に行ってほしいです。

社会福祉協議会の職員体制

- ・ 社協の職員体制の充実を図る必要なため、人員を増やして支援の強化を図ってほしいです。

社会福祉協議会への感謝

- ・ いつも上山の福祉のために色々とお手伝いしてくれて頑張っている様子、感謝しております。
- ・ いつも地域福祉の推進に尽力いただきありがとうございます。
- ・ 専門の職業としている方々に敬意を表します。
- ・ 市民全体が安心して生活できる素敵な上山市になれるよう応援していきます。
- ・ 地域包括支援センターや訪問介護の方々からの支援していただき感謝しています。
- ・ 超高齢社会にあって社協は市民にとって頼みの綱です。今後ともよろしくお願いします。
- ・ 高齢化による一人暮らしの方が増加しているため、除雪ボランティア活動やお弁当の配布等、有難いと思っています。
- ・ 年間通して、休みなく一人暮らしや体の不自由な方に寄り添って色々面倒見て下さっていることに感謝しております。雨、雪のときは特に大変でしょうが、これからますます高齢者が多くなり、忙しくなることと思います。体に気をつけて、これからもよろしくお願いいたします。

地域福祉活動計画と市民アンケートについての意見・要望

- ・ アンケート内容が高齢な方に向けた内容だった。地域での活動に参加してもよいが情報が少ないので是非ボランティア活動の参加促進をしていただきたいです。
- ・ 具体的な活動内容が理解できていないため、社協が行う地域福祉活動や支援として、今後充実する必要がある部分の問いには答えられませんでした。

その他 意見・要望

- ・核家族が普通になった今は老夫婦二人暮らし、一人暮らしの老人世帯が増える一方です。地域の助け合い、友人、知人同士の助け合いが不可欠だと思います。福祉協力員の見守りが必要になると思います。
- ・すべてのことを無償のボランティアで行うには限界があるため、ゴミ出しや間口除雪等は有償ボランティアで行うのはどうか。社協の立場が益々重要になってくると思います。
- ・近所には高齢者夫婦、一人暮らしのみで、その子供さんたちは市外県外にいる人ばかりです。災害はもちろんですが、いざ何かあったらと自分の家族も含め、心配を抱えています。地域の見守り、支え合いも大事かもしれませんが、高齢者が安心して過ごせる福祉制度、支援を期待しております。
- ・現役で家事をやっているのではなかなか社会生活に時間が取れず、社会貢献もできずに気になります。健康に気をつけて迷惑をかけないようにしたいと常日頃考えています。
- ・このアンケートをもとに、より良い地域づくりができることを願います。
- ・コロナで行事、会食会、ボランティアが難しい中、できることはないかと考えます。
- ・定年を過ぎても仕事をしていく必要があるため、生きていくので精一杯です。
- ・行事をするときは、社協と打ち合わせをして連携を図りながら、事業を推進しています。
- ・社協だより拝見させていただき、福祉に関しての理解を深めています。
- ・市役所の福祉課との業務の違いがよくわかりません。
- ・市民の声をよく聞き、自分たちの得や満足で終わらず本当の支援・サービスを求めます。
- ・地域で支える体制づくりに重要と思いますが当地区では役員、隣組の高齢化により、支え合いの仕組みが十分ではありませんので地区全体で考えなければと思っています。
- ・地域活性化のために、できるだけ多くの行事に参加して地域の皆さんと協力していきたいです。
- ・地域の中で高齢者や障がい者が不自由なく生活できる基盤がもっと強固になっていけることを望んでいます。その中の中心である社協には期待しております。
- ・当地区においても急激な高齢化が進み、車の運転ができなくなった方が増えている現状です。それに伴い地区会長会を中心として「地区助け合い事業」の立ち上げを考えているところです。
- ・何か近所の方などの変化や気づいたことを気軽に報告したりできる窓口があり、そこから民生委員・児童委員などが動けるようになればと思います。社協が行う地域福祉をやっていく中で、どんどん必要なことが出てきて対応を考えて充実を図ることが大切になると思われます。
- ・福祉活動の大切さ、ありがたさは当事者にならないと実感がわからないのでその他の人たちに興味を持ってもらえるような活動が必要だと思います。
- ・福祉に携わらない人のほとんどはそもそも福祉って何という状態だと思うのでそういう人を少しでも少なくしていくことがこれからの課題ではないかと思っています。
- ・買い物、通院、除雪等、高齢者が気軽に頼めるところがあるのが理想です。介護度で色々な規制があると思いますが、親世代が簡単に利用できるものがあればと思います。また、他には学業、仕事を超えた年代の違う方たちとの交流の場があればと思います。

「第4次上山市地域福祉活動計画」策定のための市民アンケート結果より

東北福祉大学総合福祉学部准教授 佐藤 英仁

今回の調査結果から以下の特徴と課題を見出すことができる。

1) サポート体制と活動への参加

困った時に、手助けをしてくれる人がいる市民は9割を超えていた。その一方で、地域活動やボランティアへ参加している市民の割合は比較的低かった。すでに住民に対するサポート体制が確立していると言えるが、地域活動への参加率を上げることが今後の課題である。

2) 生活困難者と支援

現在、日常生活で困っていることがない市民は約8割にとどまっていた。一方で、支援ができる市民は6割を超えていた。日常生活で困っている市民は少なからずいるが、その方々を支援できる市民は多い。支援できる住民と困っている住民をつなぐシステムの構築が課題と言えよう。

3) 地域活動や社会福祉協議会の認知度

地域の活動や社会福祉協議会の認知度は高いとは言えない。一方、活動へ参加したいのに知らなかったため参加できていない人が多いことも示唆される。広報の方法などを見直す必要があるだろう。

4) 若者の地域活動への参加

地域活動やボランティア活動への参加者の割合は高齢者と若者で大きな差が見られた。20代、30代の地域活動やボランティア活動への参加者が少なく、活動への認知度も低い。若者の関心を喚起するようなイベントや広報などが求められる。

5) 高齢者と子どものつながり

「学校における福祉体験学習の推進」や「子どもの居場所づくりや子育てを支援」の回答が70代、80代で割合が低かった。高齢者の子どもに対する意識が低く、高齢者と子どもの交流が少ないことが示唆される。小学校や中学校と連携した取り組みが有効であろう。

6) 地区別の特徴

一部の地区では現在日常生活で困っている市民が比較的多いにも関わらず、支援できる方が少ない。一部の地区では住民同士のサポートには限界があると言える。市や社会福祉協議会でのサポートが重要となるだろう。

**「第4次上山市地域福祉活動計画」策定のための
民生委員・児童委員、主任児童委員アンケート**

(1) 地域内の連携状況や情報交換

問1 連携している関係者・機関はどのような方ですか。(複数回答)

	地区会長	地区役員	隣組長	1～3以外の 地域住民	老人クラブ	子ども会	婦人団体	ふれあい・ いきいきサロン 活動団体	他の民生委員・ 児童委員、主任 児童委員	その他	合計
北部	17	13	4	6	2	1	0	8	13	2	66
南部	8	8	1	3	1	0	0	8	6	1	36
西郷・中山	6	2	0	5	1	0	0	1	7	0	22
宮川	9	3	0	5	0	0	0	0	9	0	26
中川	7	4	1	4	0	1	0	1	6	0	24
合計	47	30	6	23	4	2	0	18	41	3	174

※その他「前任の民生委員」、「更生保護婦人会」

**問2 連携・情報交換の状況について、どのような形で行っていますか。
(ひとつに○を)**

		日常的に連携を取りながら 活動している		地区会等であつまったとき に情報交換をしている		必要な時のみ連携している		その他	合計	
		地域役職員	関係機関	地域役職員	関係機関	地域役職員	関係機関	関係機関	地域役職員	関係機関
北部	度数	17	3	2	2	4	17	1	23	23
	%	73.9	13.0	8.7	8.7	17.4	73.9	4.3	100.0	100.0
南部	度数	6	2	2	1	4	9	0	12	12
	%	50.0	16.7	16.7	8.3	33.3	75.0	0.0	100.0	100.0
西郷・ 中山	度数	1	0	1	2	6	6	0	8	8
	%	12.5	0.0	12.5	25.0	75.0	75.0	0.0	100.0	100.0
宮川	度数	1	1	2	2	6	6	0	9	9
	%	11.1	11.1	22.2	22.2	66.7	66.7	0.0	100.0	100.0
中川	度数	4	0	0	1	4	7	0	8	8
	%	50.0	0.0	0.0	0.0	50.0	87.5	0.0	100.0	100.0
合計	度数	29	6	7	8	24	45	1	60	60
	%	48.3	10.0	11.7	13.3	40.0	75.0	4.3	100.0	100.0

地区内で連携や情報交換を行う場合、役職員の場合は「日常的な連携」において行う場合と「必要に応じて行う」場合がみられる一方、関係機関の場合は「必要に応じて行う」場合が多い。

(2) 地域活動と地域生活課題

問3 地域活動について、今後、特に力を入れた方がよいと考える取り組みはどのようなものがありますか。(複数回答)

		地域の行事 (お祭り・ 清掃活動)	公民館 の行事	婦人会 活動	老人ク ラブ活 動	スポーツ 団体・ク ラブ活動	ふれあい・ いきいきサ ロン	趣味娯楽 等サーク ル活動	防犯・防 災活動	交通安全 活動	子育て等 に関する 活動	日常生活 支援の活 動	その 他	合計
北部	現在	17	8	0	0	0	13	4	7	0	0	9	1	59
	今後	15	4	1	1	1	12	3	10	1	1	11	2	62
南部	現在	8	2	0	1	0	9	1	6	2	1	4	0	34
	今後	8	2	0	1	0	9	2	3	0	1	7	0	33
西郷・ 中山	現在	6	2	0	2	0	2	0	4	1	0	2	0	20
	今後	3	1	0	1	0	3	0	4	1	2	3	0	18
宮川	現在	8	4	0	0	0	3	2	2	2	0	4	0	25
	今後	5	4	0	0	0	3	2	4	1	0	2	0	21
中川	現在	4	6	0	1	0	2	0	2	0	0	5	0	21
	今後	3	0	0	3	0	3	2	3	0	0	5	0	20
合計	現在	44	23	0	4	0	29	7	21	5	1	24	1	159
	今後	35	11	1	6	1	30	9	24	3	4	28	2	154

※その他(今後)「空き家前の除雪」、「畑の猿で困っている」、「介護者や障害児の親との対話」

問4 地域行事や福祉活動に対して、今後どのような方に参加してもらいたいですか。(複数回答)

		介護サービス 利用者	障がい児・者	小中高大学生	就学前児と親	介護家族	近隣の福祉施設 関係者	ボランティア	その他	分からない	合計
北部	現在	8	2	6	5	5	2	4	3	3	38
	今後	11	4	9	7	12	3	3	3	2	54
南部	現在	4	3	8	3	3	2	3	0	1	27
	今後	7	6	6	4	6	7	6	1	1	44
西郷・ 中山	現在	0	0	4	2	1	0	1	1	3	12
	今後	2	1	2	3	3	2	2	0	0	15
宮川	現在	3	1	4	1	2	2	1	0	2	16
	今後	3	2	6	3	5	1	3	1	1	25
中川	現在	2	0	3	1	3	2	2	1	1	15
	今後	3	1	4	1	5	1	3	1	1	20
合計	現在	17	6	25	12	14	8	11	5	10	108
	今後	26	14	27	18	31	14	17	6	5	158

※その他(今後)「できれば地区の全ての人」、「地区役員」、「高齢者」、「一人暮らしの方」

現在と今後に関する地域活動に関する回答総数は、大きな違いはなかったので、「現在」以上に「今後」の回答数の多い活動に対する必要度が高いとみられる。一方参加者に関する回答は「現在」の回答総数よりも「今後」の回答総数が50%近く多かったことから、「現在」よりも今後の回答が50%以上の参加者に対する期待が大きいと思われる。これらの参加者の参加が期待できる地域活動の充実が、課題となると思われる。

問5 地域生活課題はどのようなことがありますか。(複数回答)

(10件以上の回答数を抽出)

	日常生活の課題(98件)			地域生活上の課題(122件)				
	ゴミ出し	買い物	簡単な修理	見守り	話相手	除雪	近隣交流	移動手段
北部	14	8	3	5	6	14	11	9
南部	6	4	4	4	5	7	7	5
西郷・中山	2	2	2	1	0	4	1	3
宮川	0	1	0	2	1	5	2	5
中川	4	4	1	2	3	6	4	5
合計	26	19	10	14	15	36	25	27

※上記以外の主な回答は、「掃除(8件)」、「灯油入れ、書類手続き(7件)」など

生活上の課題として、主な回答は上記のとおりであった。基本的には地域内の繋がりがし
っかりとできていることが前提となる内容の回答で占められている。

問6 地域生活課題への取り組み、提案

地域生活課題への取り組み

- ・サロンに参加されている方が固定化しているので、幅広く多くの方に参加してもらえよう、内容を変えています。
- ・ご近所の方々に対して、ゴミ出しや除雪などの協力があります。
- ・消防団が高齢者宅の排雪作業を行っています。
- ・地区も高齢化が進んできているので、高齢者や災害時要支援者をどのように避難させるかについて「自分の身は自分で守る」と言う事をお願いしたいのですが、なかなか難しいと思われます。そのため、とにかく早い段階での避難を呼びかけるようにしています。

地域生活課題への提案

- ・高齢者対象に、宅地内の草取り・植栽、通院や買い物などについてシルバーサービスで安価に提供することはできないでしょうか。
- ・ボランティアアドバイザーの育成をするのはいかがでしょうか。
- ・行政が把握している情報と実際の地域住民の生活がかならずしも一致していないので、もう少し情報交換する場があればよいと思います。
- ・日常のゴミ出し、買い物、除雪、灯油入れ等のボランティア登録制を確立し、要支援者の利便を図ってほしい。また、通院費(交通費)の支援を考慮願いたい。
- ・積雪が何cm以上になったら、玄関前の通行だけでもスムーズに行えるような除雪作業システムができないだろうかと思います。
- ・地区内の手助けが必要になっているため、行政の手も借りながら、隣組や地区会での情報共有をして目配り声かけなどの日常的な取り組みが必要だと思います。

- ・ 地区内での情報交換の場がないので、定期的な集まりでの話し合いがあればと思います。
- ・ 縦のつながりばかりでなく、地区の役員色々なサークル・団体等との横のつながりがあったほうがもっと情報が入って活動に力が入るのではないのでしょうか。
- ・ 老人クラブで地区内の課題を解決するため、70 歳以上は老人クラブに加入してほしい。
- ・ 今も循環型の乗り物がありますが、市内どこでも自由に乗り降りできる介護者付きの乗り物が理想です。各地区で循環運行してほしいです。
- ・ 冬期間の高齢者（一人暮らしの方）宅の通路除雪への支援のために、地区内でボランティアを募集しても、2～3名しか集まらず最終的に民生委員・児童委員が自宅に出向き、除雪を3～4回実施しました。健康推進課に申し込みをすると利用できる制度があることを福祉のしおりではじめて知りました。民生委員・児童委員に周知してほしいです。
- ・ 地区役員間で生活課題について共有化し解決を計っています。

その他

- ・ 住民同士の横のつながりや、ふれあう機会がほとんどないと思われ、あらゆる面で、先細りしているのを実感しています。
- ・ 若い人の声が聞こえてきません。若い人たちが、余裕のない生活を強いられていることによるしわ寄せが、子育てにも、高齢者にも、地域活動にも影響していることは誰もが感じています。
- ・ 上山市に住んでも安心して出産できる環境づくりが必要です。
- ・ 一人暮らし高齢者を中心にフォロー活動をしています。あまりにも近所同士の繋がりがなく心配でなりません。継続的にフォローしますが、限界があります。同市内に息子・娘・親戚が住んでいても顔を出さないという例が多々あります。このような関係をどう修繕(回復)したらいいのか悩むところです。
- ・ 一人ひとりに合った福祉サービスの提案を民生委員・児童委員としてすすめていく。どのようなサービスが必要なのか親族の方などの意見を聞きながら今後も進めていきたいです。
- ・ 地区役員が高齢で、消防団が若者なため、ここをうまく連携できるようにと考えています。
- ・ 毎年、防災訓練において、要援護者の安否確認をしているのですが、民生委員・児童委員だけでは十分に活動できてなく、協力者や組長さんをお願いして協力いただく必要性を感じております。要援護者の情報をどの程度教えていいものか、個人情報保護の実情から課題がのこります。
- ・ ゴミ出しができない方がいるが、同じ地区の人には頼みたくないと言っています。
- ・ 民生委員・児童委員活動をしている中で、いろんな方の話を聞くことが多くなってきた。聞いて支援するのは良いのですが、近所の目、うわさ話に悩まされます。ゆっくり話を聞ける場所があればと思います。

(3) 民生委員・児童委員、主任児童委員の活動

問7 良かったと感じていること（複数回答）

	地域の事がよくわかって理解が進んだこと	住民の方と知り合いになって人間関係が広がったこと	相談されていたことが解決するととてもやりがいを感じたこと	福祉の事が理解できて勉強になったこと	住民の方から頼りにされたこと	特に良かったと感じたことはない	その他	合計
北部	13	17	8	11	9	1	3	62
南部	8	9	6	8	6	0	0	37
西郷・中山	4	4	2	6	1	0	1	18
宮川	6	7	2	4	1	1	0	21
中川	5	5	6	4	3	0	0	23
合計	36	42	24	33	20	2	4	161

問8 課題と感じていること（複数回答）

	対象世帯が多く訪問が大変	地域行事が多い	住民に民生委員・児童委員、主任児童委員の仕事が分かってもらえない	地区会等の理解が得られない	難しい相談が多く精神的にきつい	アドバイスをもらうなど	専門的な相談が多く対応できない	特に課題はない	その他	合計
北部	9	2	6	0	1	1	2	3	5	29
南部	4	1	0	0	1	2	0	2	2	12
西郷・中山	3	0	3	1	0	1	0	3	1	12
宮川	1	1	1	1	1	1	0	3	1	10
中川	0	0	1	0	0	0	0	3	2	6
合計	17	4	11	2	3	5	2	14	11	69

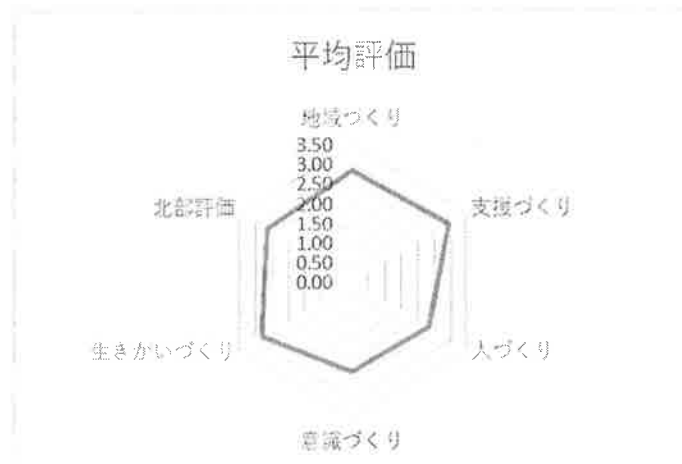
民生委員として活動したことに関する感想として、良かった点と課題点に関する意見は上記のとおりであった。

(4) 第3次上市市地域福祉活動計画における地区別評価結果

評価結果を、市全体と特別に集計した結果は、以下のとおりであった。

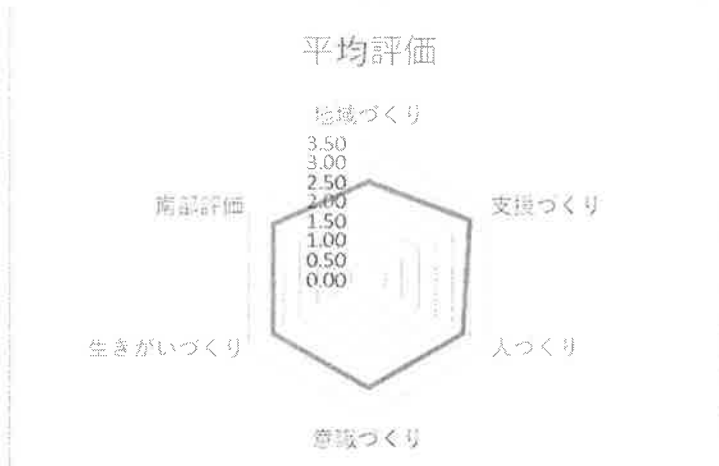
問9 北部地区

北部	平均評価
地域づくり	2.83
支援づくり	2.94
人づくり	2.33
意識づくり	2.33
生きがいづくり	2.83
北部評価	2.66



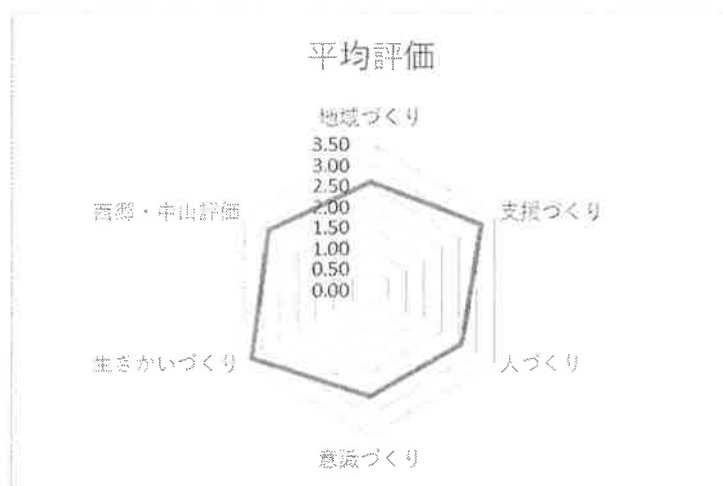
問 10 南部地区

南部	平均評価
地域づくり	2.50
支援づくり	3.00
人づくり	2.80
意識づくり	2.80
生きがいづくり	2.80
南部評価	2.78



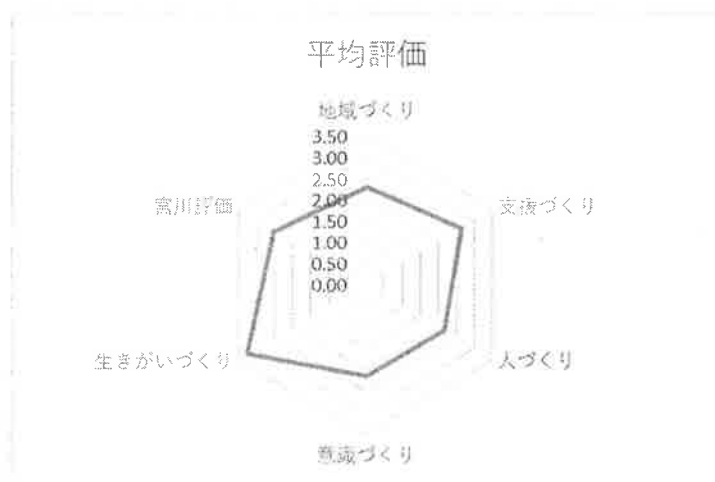
問 11 西郷・中山地区

西郷・中山	平均評価
地域づくり	2.57
支援づくり	3.14
人づくり	2.57
意識づくり	2.57
生きがいづくり	3.29
西郷・中山評価	2.83



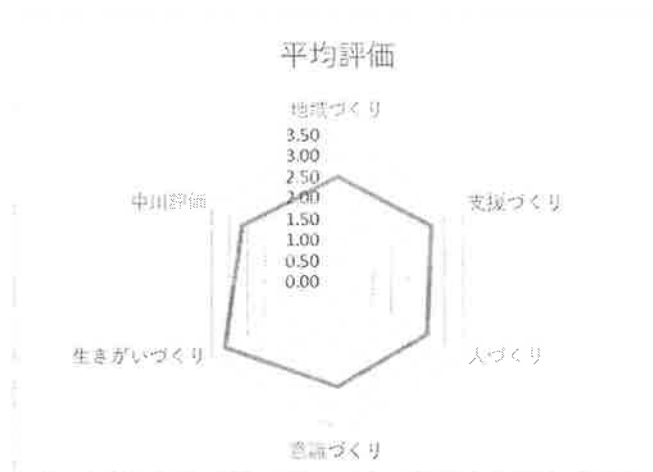
問 12 宮川地区

宮川	平均評価
地域づくり	2.29
支援づくり	2.63
人づくり	2.14
意識づくり	2.14
生きがいづくり	3.25
宮川評価	2.51



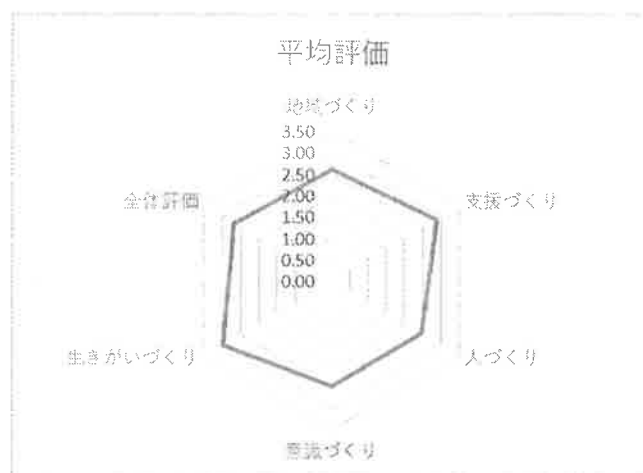
問 13 中川地区

中川	平均評価
地域づくり	2.50
支援づくり	2.63
人づくり	2.50
意識づくり	2.50
生きがいづくり	3.13
中川評価	2.65



問 14 全体

全体	平均評価
地域づくり	2.60
支援づくり	2.88
人づくり	2.46
意識づくり	2.46
生きがいづくり	3.00
全体評価	2.68



問 15 地域福祉のために必要なことはどのような内容ですか（複数回答）

	住民による見守りや支え合い活動への支援	気軽に相談できる相談窓口の充実	高齢者や障がい者等の在宅生活を支える福祉サービスの実施	ボランティア活動への参加促進と支援	地域住民への福祉活動に関する普及啓発活動	学校における福祉体験学習の促進	経済的に活動が苦しい人への支援	子どもの居場所づくりや子育ての支援	その他	合計
北部	15	9	10	7	8	5	9	5	1	69
南部	6	8	10	3	5	1	4	3	0	40
西郷・中山	7	5	6	3	3	1	5	6	0	36
宮川	5	3	9	2	3	3	2	7	0	34
中川	6	2	2	3	4	1	1	1	1	21
合計	39	27	37	18	23	11	21	22	2	200

地域福祉のために必要な事項としては、上記の結果となった。

問 16 上山市社会福祉協議会について、ご意見などご自由にお書きください。

社会福祉協議会の事業等についての要望

- ・ 除雪ボランティアについては臨機応変で、冬期に月 2 回位(半日程度)学校行事として取り組んではいかがでしょうか。
- ・ 地域にいる看護師や介護士の O B や O G を福祉協力員と認定する制度を作ってはいかがでしょうか。
- ・ 空き家の前の道路が狭くなり歩行者が通れないことから、排雪も除雪してくださるとありがたいです。
- ・ 高齢者のみならず、若者の相談もできる事等の周知がもっと必要と思います。
- ・ 歳末たすけあい募金の対象者について、生活に困っている人をあげてくださいと依頼をうけますが、民生委員・児童委員では、把握できないため困っています。
- ・ どのような活動をしているのか、どのような支援が受けられるのかなど日常的な広報活動をしてほしいです。

社会福祉協議会への感謝

- ・ サポート体制がうまくいっているので、今後ともよろしくお願いします。
- ・ 福祉の仕事に携わってみて感じたこと、色々とあり私自身、驚きや戸惑いがあります。みなさんも色々な場面で威圧的な行動や言葉をあびせられたこともあると思いますが、今後とも支援よろしくお願いします。
- ・ 民生委員・児童委員になってみて、初めて社協のことを知り、高齢者に対する福祉サービス活動の内容に触れることができました。住民としては、相談ごととは市役所の福祉課を第一に考えますが、社協の相談窓口というものが、身近にあることを話し伝えているところ です。
- ・ バスも不便なので、社協では温泉デイサービスなど送迎をしていただけるので助かります。
- ・ 総会や研修会議等の資料や次第のコピーに協力をいただき大変助かっています。
- ・ 多種に渡る業務を日々こなされていることに敬意を表します、ありがとうございます。
- ・ 様々な活動、事業への取り組みはご苦労様ですと頭の下がる思いです。地区の方が大変お世話になり、今はヘルパーさん等の支援を受けながら一人暮らしをしておられますが、社協と包括支援の方々の横の連携がスムーズで、大変心強い思いをいたしました。

地域福祉活動計画と市民アンケートについての要望

- ・ 今回のアンケートですが、コロナ禍で全くといっていい程活動ができてないと感じます。コロナの影響が続く中での支援を考える方向で考える必要があるように思います。
- ・ 地区会長もいない、地域活動もないという状況の中でアンケートを書けない所はたくさんあり、大変申し訳ありません。コロナ禍の為に十分な活動は出来ませんでした。
- ・ 地域住民の助け合い支え合う地域づくりを目指しての福祉活動計画を策定中とのことですが、地域の現状は住民数や世帯数の減少に伴い、地区役員や民生委員・児童委員等のなり手不足でなかなか決まらない現状です。地区の役員になり中心になり住民の支え合いを主

導することよりも自分の生活中心で他人のことまで手がまわらない実情がみえます。少子高齢化で取りのこされるのは弱者になっていくことが危惧されます。また、事業拡大よりも将来を見据えて精選に実施してほしいです。

- ・新型コロナウイルス感染予防のため、活動が制限されることが多く、情報交換や研修の場がほとんどなく、福祉活動への理解も不十分なまま記入しました。

その他の意見・要望

- ・現状、民生委員・児童委員は『よろず相談所』となっています。墓じまいや隣家の植木の苦情、信号の件や貯水池の件など、関係部署に相談しています。
- ・個人情報に関して誤解をされるケースがあります。
- ・コロナ禍にできることが大幅に制限されての民生委員・児童委員活動はなかなか大変です。テレビのコマーシャルでやっているように「困った時は民生委員・児童委員」と丸投げされてもこちらが困ってしまいます。もっと行政が市民にいろんな機会をとおして福祉サービスを訴えていけるのではないのでしょうか。
- ・個人情報の壁はあるものの積極的な情報の提供が必要と考えます。
- ・高齢化社会の今、各々が楽しく過ごせるよう、様々なプランのご提案をお願いします。
- ・特に、地区に公民館がないところは百歳体操もできず困っております。北部地区公民館を借りる事はできますが、遠いので車手配が大変です。
- ・コロナ禍で集会室や福祉バスの人数制限があり社協との関わりが疎遠になってきています。
- ・個人情報が優先される昨今において、民生委員・児童委員の負担が増しています。
- ・社協は安心して何でも相談できる場所だと思います。これからもよろしくお願いします。
- ・民生委員・児童委員の他に、地区に1名くらい相談できる方がいると助かると思います。
- ・地区の役員さん達が気にかけて見守り活動をして頂いているので大変助かっています。
- ・対象範囲が広く、また個人情報に関することも多く大変だと思います。微力ながらできることは是非協力したいと考えています。
- ・農家と会社勤務との生活のずれがあり、なかなかまとめることが難しく、サロンを立ち上げることができません。
- ・今まで社協の窓口相談に行くことはありませんでしたが、これからは相談された事などアドバイスいただきたいのでよろしくお願いします。

行政への要望

- ・上山市は、拠点整備や全妊産婦家事育児支援事業など安心できる地域の体制がある事をもっと広く知らせる必要があると思います。
- ・福祉課、健康推進課へ「除雪支援」をお願いします。
- ・高齢者世帯の除雪支援について手続きが大変なので、利用券とかもっと気軽に簡単にはならないでしょうか。
- ・よく対象者の住民税非課税者と書類に書かれているが、この事は民生委員・児童委員の知ることではないので、行政で行ってもらいたいです。

「第4次上山市地域福祉活動計画」策定のための 民生委員・児童委員、主任児童委員アンケート結果より

日常生活における活動を展開する際に、連携する機会の多い地域の役職員は、第一に「地区会長」が多く、次に「他の民生委員・児童委員、主任児童委員」次いで「地区役員」という結果でした。この結果は、回答いただいた方の中に、一期目の委員が多い事が影響していると思われます。

次に、地域活動に関しては、今後必要とされる活動として「地域の行事」、「ふれあい・いきいきサロン」、「日常生活の支援」、「防犯・防災活動」の順となっています。この回答から見る限り、基本的に地区会の行事の方向性についての回答と思われます。今後、地区での活動に参加して欲しい住民としては「介護家族」、「小・中・高・大学生」、「介護サービス利用者」の順となっており、今後必要とされる活動と、活動に参加して欲しい住民とのマッチングが大きな課題となります。

また、日常生活を送る上での課題としては、「ゴミ出し」、「買い物」が多くあげられ、地域生活を送る上での課題としては、「除雪」、「移動手段」、「近隣交流」が多くあげられています。

そして、これらを実現するためには、「住民による見守りやささえあい活動への支援」、「高齢者や障害者等の在宅生活をささえる福祉サービスの実施」が重要で、そのためにも「気軽に相談できる相談窓口の充実」や「地域住民への福祉に関する普及啓発」が必要との結果となりました。

その他としては、子育て支援や生活困窮者支援対策の必要性の意見もあげられました。

第3次上山市地域福祉活動計画に対する評価結果について、地区別評価については、2.5を評価基準としており、2.5以上であればできている、2.5に満たなければ不十分の評価となる。全体的な平均評価としては、「生きがいづくり」、「支援づくり」は高評価であり、「地域づくり」は地域差がでている評価、「人づくり」と「意識づくり」については低い評価が見受けられました。

コロナ禍で地域活動に制約をうけ、十分に事業展開ができないことや活動場所の確保が難しかったことを考慮すると、このような社会情勢ではあるが、良い評価を得た結果となりました。

第4次上山市地域福祉活動計画第3回策定委員会の協議内容をもとに事務局作成

**「第4次上山市地域福祉活動計画」策定のための
上山市社会福祉法人等連絡協議会アンケート**

1. 事業種別

- (1) 児童関係 4事業所
- (2) 高齢関係 10事業所
- (3) 障害児・者関係 7事業所

※一法人で複数の対象領域のサービスを提供している法人もあることから（高齢者と障害児・者が2法人）、合計は一致しない。

2. 開設年数

事業種別×開設年数						
	3年未満	3～5年未満	5～10年未満	10年以上20年未満	20年以上	計
児童	1	0	1	2	0	4
高齢者	0	3	3	2	2	10
障害	1	2	2	1	1	7
計	2	5	6	5	3	21

※回答法人中、2法人が複数事業所を運営していたため、合計は回答数とは一致しない。

3. 広報紙の発行

事業種別×広報紙の発行	
	広報紙の発行
児童	2
高齢者	8
障害	6
計	16

4. 人材確保対策

事業種別×人材確保の取組み	
	人材確保の取組み
児童	3
高齢者	7
障害	2
計	12

- ・ 学校訪問 ・ 求人広告 ・ 福祉厚生の充実
- ・ 処遇改善 ・ 労働環境改善 ・ 外国人雇用 等

5. 資質向上の取組み（複数回答）

事業種別×資質向上の取組み									
	独自の 研修制度	研修会や 講演会 への参加	職員育成 マニュアル	要望や相談等 の受付体制 整備	先進事例等 情報収集	関係団体等 情報交換・ 交流	その他	特に取り 組んでい ない	計
児童	3	3	0	2	2	3	0	0	13
高齢者	7	7	4	7	4	5	1	0	35
障害	4	6	1	5	2	5	0	0	23
計	14	16	5	14	8	13	1	0	71

6. 防災対策

事業種別×防災対策			
	避難訓練実施	避難訓練への住民参加	地域住民への避難所提供検討
児童	4	0	0
高齢者	9	1	7
障害	6	0	4
計	19	1	11

7. 地域との関わり （現在）（複数回答）

事業種別×地域との関わり										
	地域行事 への参加	地域行事へ の施設開放	地域主催 の会議 への参加	地域住民 参加の行事 開催	地域への備 品貸し出し	専門知識・ 技術の提供	地域との 防災対策 連携	その他	特に取り 組んでい ない	計
児童	3	0	0	1	0	1	0	1	1	7
高齢者	5	1	6	3	3	4	1	1	0	24
障害	5	1	2	2	0	0	0	0	2	12
計	13	2	8	6	3	5	1	2	3	43

（今後）（複数回答）

事業種別×地域との関わり										
	地域行事 への参加	地域行事へ の施設開放	地域主催 の会議 への参加	地域住民 参加の行事 開催	地域への備 品貸し出し	専門知識・ 技術の提供	地域との 防災対策 連携	その他	特に取り 組んでい ない	計
児童	2	0	1	1	0	1	1	1	0	7
高齢者	8	4	5	5	7	7	7	1	0	44
障害	4	3	4	4	5	4	3	0	0	27
計	14	7	10	10	12	12	11	2	0	78

8. 地域活動上の課題（複数回答）

事業種別×地域活動上の課題								
	関係づくり のきっかけ がない	職員数が少な く地域行事に 参加できない	地域開放の 施設設備が ない	利用者のプラ イバシーの 確保が優先	地域ニーズ が確保でき ない	その他	特になし	計
児童	1	0	2	1	1	2	0	7
高齢者	2	4	2	1	2	3	1	15
障害	1	3	3	0	0	1	0	8
計	4	7	7	2	3	6	1	30

9. 充実を図るべき事項

事業種別×充実を図るべき事項										
	見守りや 支え合い 活動	相談窓口	在宅福祉 サービス	ボランティ ア活動	福祉に関す る普及啓発	学校での福 祉体験学習	経済困窮者 への支援	居場所づくり や子育て支援	その他	計
児童	2	0	0	1	1	1	0	1	1	7
高齢者	5	7	8	2	4	6	4	2	0	38
障害	5	3	3	1	2	3	4	4	0	25
計	12	10	11	4	7	10	8	7	1	70

10. 社会福祉協議会への意見

記載内容

- ・ ご苦労様です。いつも感謝しております。今後とも宜しくお願い致します。
- ・ いつも大変お世話になりありがとうございます。社協さんの取り組みはいつも素晴らしいと思っております。赤い羽根募金やら、協力出来ることは協力させていただきます。
- ・ 問8とも関りがありますが、外出することや社会参加を目指す視覚障害者が移動のサポートをする同行援助、あるいは、移動の支援が受け入れられずに居ると聞いています。誰もが視覚障害者の移動のサポートが出来る様な講習会が出来ないかと考えます。（講師派遣します。）
- ・ 新型コロナの長期化により活動や交流が限定的となっている。当法人としては特に地域防災関連が第一の課題と思われる。上山市社会福祉協議会様におかれましては、今後とも積極的な地域活動の推進をお願い致します。

「第4次上山市地域福祉活動計画」策定のための
上山市社会福祉法人等連絡協議会アンケート結果より

各事業所では、防災対策への意識や、地域との連携に関する回答が多くを占めています。

また、今後充実を図るべき事項として「見守りやささえあい活動」、「在宅福祉サービス」、「相談窓口」、「学校での福祉体験学習」が挙げられており、各事業所がこれらに貢献するための課題として「職員数が少なく地域行事に参加できない」、「地域開放の施設設備がない」、「地域づくりのきっかけがない」等の課題解決が求められています。

回答の中には、地域活動に必要な人材の派遣を考えている事業所も見られることから、地域福祉活動への関心は少なからず高いとみられるので、今後、積極的に連携方策を検討する必要があります。

第4次上山市地域福祉活動計画第3回策定委員会の協議内容をもとに事務局作成

1. 基本理念

基本理念

「福祉の心をはぐくみ 共にささえあう

つながりのあるまち上山」

この基本理念は、住み慣れた地域でその人らしく暮らし続けるために、日常生活の中で、市民一人ひとりが福祉の心(思いやりの気持ち)をはぐくみ、互いにささえあうことができるよう、上山市社会福祉協議会が各関係機関等と共に連携・協働しながら、福祉のまちづくりに取り組むことをめざすものです。

2. 基本目標

基本理念を実現するために、次の3つの基本目標を定めて地域福祉事業を展開します。

基本目標1:ささえあう

「地域のつながる力を高め、市民みんなでささえあうまちをつくる」

基本目標2:はぐくむ

「ボランティア活動の推進と福祉意識を高めるために、市民みんなが福祉の心をはぐくみ、担い手をつくる」

基本目標3:つながる

「生活支援サービスを充実させて、人・社会みんながつながり、日常生活支援体制をつくる」

3. 計画の体系図

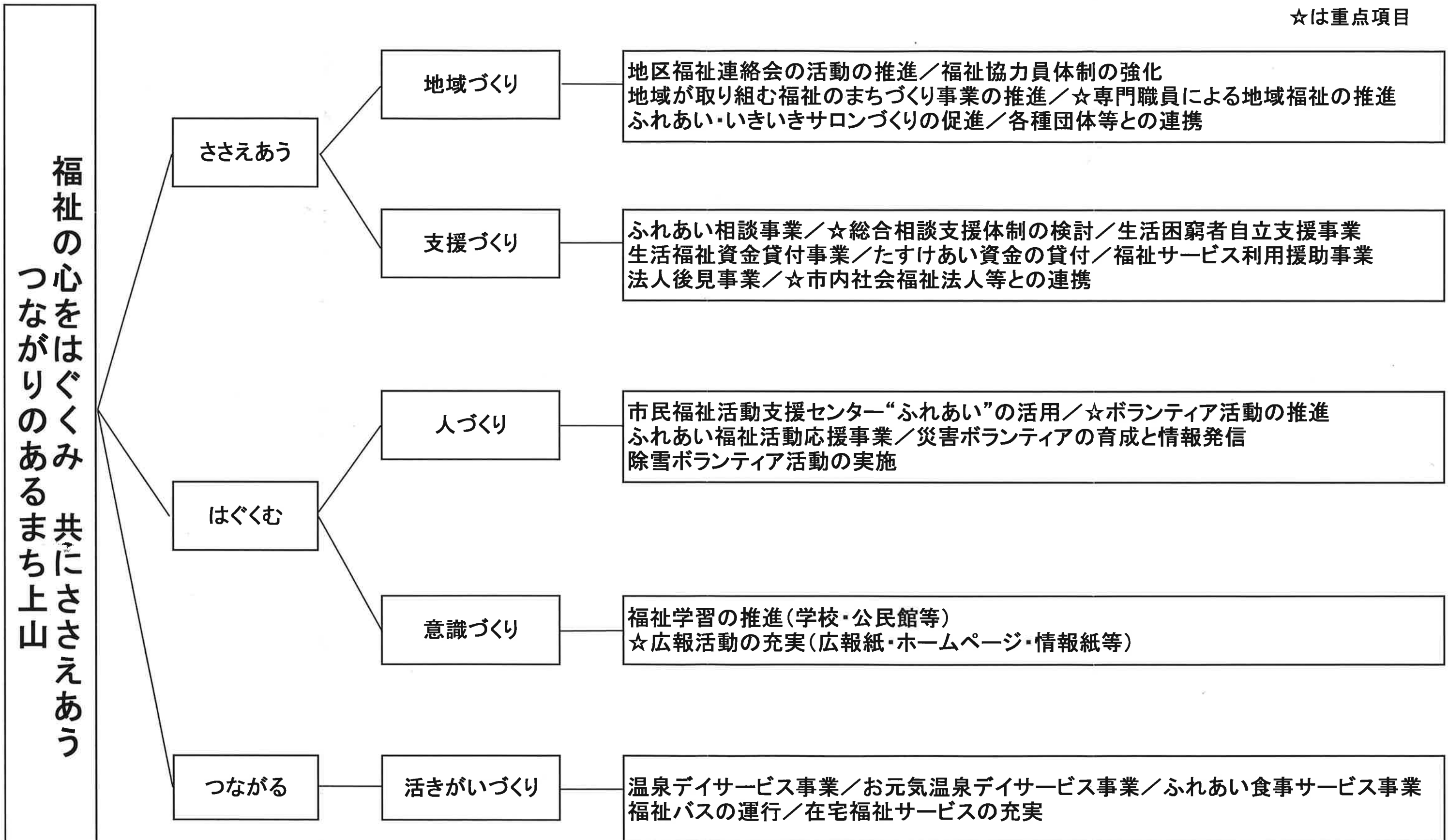
【基本理念】

【基本目標】

【基本計画】

【実施項目】

☆は重点項目



4. 計画の推進体制と進行管理

第4次上山市地域福祉活動計画の基本理念である、「福祉の心をはぐくみ 共にささえあう つながりのあるまち上山」を推進するため、市民や団体等が主体的に活動できるよう、相互に連携・協働していくことが重要です。そのため、本会において、行政や関係機関団体等と協働し地域福祉の推進役を担うとともに、その推進において地域住民、各種団体、市内福祉施設や行政との調整を行います。

また、計画を効果的に推進していくため、実施項目における具体的内容について、各事業の報告等から、計画の進捗状況の把握に努めます。

各事業の進捗状況や目標達成状況、課題の分析などを通じて、事業内容の改善を行うとともに、社会情勢の変化や大きな制度改革、新たに生じる課題等に対して柔軟かつ迅速に対応できるよう、必要に応じて計画内容の見直しを行います。

5. 計画の公表と周知啓発

第4次上山市地域福祉活動計画や中間評価の結果については、福祉関係団体・機関や行政等に配布して計画を周知するとともに、ホームページにおいて公開するものとします。

また、計画の主な項目を分かりやすいようにまとめた概要版（ダイジェスト版）を作成し、市内全戸に配布して計画を公表するとともに、市民に対し周知啓発を図ります。

第4章 第4次上山市地域福祉活動計画の具体的な取り組み

基本目標1：ささえあう

地域のつながる力を高め、市民みんなでささえあうまちをつくる

基本計画（1）地域づくり

＝福祉の心を持ちながら、地域でのつながる力を高めていく＝

実施項目

地区福祉連絡会の活動の推進／福祉協力員体制の強化

地域が取り組む福祉のまちづくり事業の推進／専門職員による地域福祉の推進

ふれあい・いきいきサロンづくりの促進／各種団体等との連携

アンケート結果より抜粋

- ・高齢化社会のため、関係する組織、人々だけの見守り、ささえあいだけでなく隣組を中心とした良い人間関係づくりによる地域づくりが必要である。
- ・少子高齢化で、住み慣れた地域で暮らすためには移動手段が重要なので、移動できるしくみ（買い物支援、外出支援）を早急に推進してほしい。
- ・コロナの影響でサロンの開催が難しいことや、高齢で参加できなかったりするが、元気になるサロンを考えている。今後も支援やアドバイスがほしい。
- ・高齢者支援だけではなく、障がい者支援や子育て支援について、どのような支援を社協が担うのか、他の関係機関とも連携しながら進める必要がある。
- ・新型コロナの長期化により活動や交流が限定的となっている。法人としては特に地域防災関連が第一の課題であるため、積極的な地域活動の推進をお願いしたい。

現状と課題

本市では、地域住民が互いにささえあう活動を推進する組織として、全地区に地区福祉連絡会が設置され、地区役員や隣組長が福祉協力員となって、地区に根差した独自の活動が行われています。しかし、少子高齢化や核家族化の進展により、一世帯あたりの家族構成員が減少し、世帯規模、家族構成の縮小化が進んでいます。

また、近隣同士の関係が希薄化しており、各地区で実施している福祉活動や事業の取り組みについて、差異が見られている状況であるため、地区福祉連絡会の活動を支援し、課題の共有や見守り体制、交流活動の充実を図るとともに、地域のさまざまな団体や関係者と協働しながら地域課題を解決していく必要があります。

方向性

住み慣れた地域で、安心・安全に暮らしていくためには、近隣同士のささえあいが不可欠です。そのため、地域福祉の担い手である地域住民の福祉意識を高めることが必要となります。また、専門職員との連携や市内の関係機関との協働により、共にささえあう地域づくりを積極的に推進していきます。

実施項目と具体的内容

☆重点項目

実施項目と具体的内容	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年
地区福祉連絡会の活動の推進 住民主体の地域福祉活動の充実と福祉ネットワークづくりを推進するため、市内全地区に地区福祉連絡会の設置を推進します。 また、それぞれの地区で実施されている活動における現状と課題の把握に努め、地区と積極的に関わりながら、活動を支援します。 <地区が取り組む主な活動内容> 福祉協力員の設置、高齢者等への友愛訪問活動、ふれあい・いきいきサロンの設置と運営、ふれあい会食会及び配食サービスの実施、福祉研修会・健康教室等の開催、世代間の交流を図る事業の推進、各種団体との連携や行事への参加、非常時の緊急援護体制づくり、地区内の奉仕活動（除雪、清掃活動等）	99 地区 で実施	99 地区 で実施	99 地区 で実施	99 地区 で実施	99 地区 で実施
	福祉ネット ワークの 強化	福祉ネット ワークの 強化	福祉ネット ワークの 強化	福祉ネット ワークの 強化	福祉ネット ワークの 強化
福祉協力員体制の強化 隣組長や地区役員等が福祉協力員となって、隣組単位で福祉活動を推進できる体制を支援します。 また、近隣住民による見守りやささえあい活動を構築するにあたり、福祉協力員への委嘱状交付や研修会の開催、情報の発信、各地区に出向いて設置目的や活動内容の説明等を行います。その他、福祉協力員の意義と役割等について、啓発活動を推進します。	情報 発信	情報 発信	情報 発信	情報 発信	情報 発信
	研修会 開催	研修会 開催	研修会 開催 パンフレットの作成	研修会 開催	研修会 開催
地域が取り組む福祉のまちづくり事業の推進 地区公民館事業として独自に取り組む福祉のまちづくり事業を支援するとともに、市内全地区公民館で実施するように努めます。 地域住民同士の交流を図り、地域福祉への理解と関心を高め、事業への参加促進を行います。	10 地区 で 開 催	10 地区 で 開 催	10 地区 で 開 催	10 地区 で 開 催	10 地区 で 開 催

実施項目と具体的内容	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年
<p>☆専門職員による地域福祉の推進</p> <p>生活支援コーディネーターなどの専門職員が、各地区の会議や福祉事業等に積極的に参画していきます。</p> <p>また、地域に出向いての状況把握や、地域特性調査の実施、地域住民、民生委員・児童委員等から情報収集を行い、地域生活課題を抱える人とささえる人との調整を図りながら、日常生活における課題解決に向けた支援体制づくりに取り組んでいきます。</p>	ニーズ 把握	ニーズ 把握	ニーズ 把握	ニーズ 把握	ニーズ 把握
	資源 開発	資源 開発	資源 開発	資源 開発	資源 開発
<p>ふれあい・いきいきサロンづくりの促進</p> <p>高齢者等の地域の居場所づくりを促進するため、身近な公民館等に気軽に集い交流する、ふれあい・いきいきサロンの設置促進に努めます。</p> <p>また、内容の充実を図るための講座や、サロンの運営、活動等をささえるサポーター（協力者）の養成を行い、ふれあい・いきいきサロンが市内全地区に広まるよう支援します。</p>	75 地区	77 地区	79 地区	81 地区	83 地区
<p>各種団体等との連携</p> <p>上山市老人クラブ連合会や上山市身体障がい者福祉協会、上山市地域自立支援協議会等と連携を図り、各種事業への協力を行います。</p> <p>また、こども食堂や学習支援等を行う各種団体と連携を図り、居場所づくりの支援を行います。</p> <p>さらに、行政や学校、関係機関と情報を共有し、参加しやすい環境づくりと広報活動の充実に努めます。</p>	情報 提供	情報 提供	情報 提供	情報 提供	情報 提供
	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施

基本計画（２）支援づくり

＝誰もが孤立することがないように、地域生活課題を抱える人たちをささえていく＝

実施項目

ふれあい相談事業／総合相談支援体制の検討／生活困窮者自立支援事業
生活福祉資金貸付事業／たすけあい資金の貸付／福祉サービス利用援助事業
法人後見事業／市内社会福祉法人等との連携

アンケート結果より抜粋

- ・地域の中で、高齢者や障がい者が不自由なく生活できる基盤がもっと強固になっていけることを望んでいる。
- ・地域の見守り、支え合いも大事かもしれないが、高齢者が安心して過ごせる福祉制度、支援を期待している。
- ・何かあったらどうすればよいのか、どこに相談・連絡をすればよいのか詳しいことは分かっておらず不安である。そのため、どこに相談するのか簡単明瞭に分かりやすい様になっていれば良いと思う。

現状と課題

本市において、高齢者の一人暮らし世帯や高齢者夫婦世帯は増加しており、介護を必要とする方の支援がますます重要となります。また、加齢等に伴い、認知症の方や判断能力が十分ではなく、自分の財産や権利を守れない方が増加する傾向にあります。さらに、新型コロナウイルス感染症の影響により、仕事や生活、住居などに不安を抱えている方が増加するなど、個人が抱える悩みや不安・課題などが複雑かつ、専門的な知識を要する相談が増え、それぞれの課題に対して、公的なサービスだけでは対応することが難しくなってきました。

方向性

少子高齢化や世帯構成の変化、家庭の介護力低下、生活の多様化などにより、市民が抱える課題は複雑化しているため、気軽に相談できる支援体制を整えていきます。

また、市内の社会福祉法人等の関係機関と連携強化を図り、地域貢献活動を通じて、地域に向け情報等を発信しながら、地域全体で生活をささえていく体制づくりを推進していきます。

実施項目と具体的内容

☆重点項目

実施項目と具体的内容	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年
ふれあい相談事業（市委託事業） 誰もが気軽に心配ごとや困りごとを相談できる窓口としてふれあい相談所を開設し、必要な情報提供や専門機関へつなぐなどの機能充実を図ります。 また、弁護士による無料法律相談を毎月1回実施し、専門的な法律相談等にも対応します。	相談件数 50件 以上	相談件数 55件 以上	相談件数 60件 以上	相談件数 65件 以上	相談件数 70件 以上
☆総合相談支援体制の検討 全ての方を対象に、各々が抱える地域生活課題等に対し、課題解決に向けたアドバイスを行ったり、適切な機関へつなぐ等、総合相談支援体制の導入に向けて検討します。	情報 収集	情報 収集	具体的 実施の 検討	具体的 実施の 検討	具体的 実施の 検討
生活困窮者自立支援事業（市委託事業） 生活保護受給者以外の生活困窮者に対し、専門職員が相談を受け付け、個別の支援計画等に基づき、行政や関係機関等と連携を図りながら、仕事や生活、住居等の課題解決に向けた継続支援を行います。	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施
生活福祉資金貸付事業（県社協委託事業） 低所得者・障がい者・高齢者等の世帯に対し、生活の安定と自立支援を図るため、実施主体の県社協及び民生委員と連携しながら、必要な資金の貸付けの相談・支援を行います。	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施
たすけあい資金の貸付 緊急かつ一時的に生活資金を必要とする低所得者等に対し、無利子で資金（60,000円上限）の貸付けを行い、利用状況に応じて行政及び民生委員と連携し、生活の安定と自立促進に必要な相談支援を行います。	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施
福祉サービス利用援助事業（県社協委託事業） 認知症等の高齢者や障がいを抱えた方、判断能力の低下等により、日常生活に不安がある方等の増加に伴い、自立した地域生活が送れるよう、福祉サービスの利用手続きや日常的な金銭管理等の支援を行います。	23件 以上	23件 以上	25件 以上	25件 以上	25件 以上

実施項目と具体的内容	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年
法人後見事業 地域住民が成年後見制度を利用することで、安心して生活が送れるように、本会が法人として成年後見等を受任し、被成年後見人等の財産管理や身上監護について、長期的に支援を行います。	8件 以上	8件 以上	9件 以上	9件 以上	9件 以上
☆市内社会福祉法人等との連携 市内の児童、障がい者、高齢者等の関係機関・団体等で構成する上山市社会福祉法人等連絡協議会において、研修会や情報交換などを行います。 また、公益的な取り組みを記載したシートの作成及び情報発信を積極的に行い、社会福祉法人等による地域貢献活動（地域活動や行事へ参加及び活動支援）の推進と地域福祉の向上を図ります。	連絡会の開催 地域への情報発信	連絡会の開催 地域への情報発信 シートの更新	連絡会の開催 地域への情報発信と行事参加支援の検討	連絡会の開催 地域への情報発信と行事参加支援 シートの更新	連絡会の開催 地域への情報発信と行事参加支援



ふれあい・いきいきサロン



ふれあい・いきいきサロン

基本目標２ はぐくむ

ボランティア活動の推進と福祉意識を高めるために、市民みんなが福祉の心をはぐくみ、担い手をつくる

基本計画（１）人づくり

＝つながりのある地域を維持するため、担い手の確保・育成の機会を作っていく＝

実施項目

市民福祉活動支援センター“ふれあい”の活用／ボランティア活動の推進
ふれあい福祉活動応援事業／災害ボランティアの育成と情報発信
除雪ボランティア活動の実施

アンケート結果より抜粋

- ・ 地域での活動に参加したいが、情報が少ないので是非ボランティア活動の参加促進をしてほしい。
- ・ 日常生活の中で、自分が手助けできることがあれば協力したい。
- ・ 共感するボランティア活動があれば参加してみたい。
- ・ 社協の具体的な活動内容をもっと住民に周知が必要である。

現状と課題

本会では、市民活動の輪を広げるため、ボランティア活動の普及を行っていますが、少子高齢化による人口減少に伴い、日常生活をささえる体制が弱くなり、地域の担い手も減少傾向にあるなかで、ボランティアの輪を広げていくことは、とても重要となります。地域で活躍している方がいる一方で、地域の担い手不足やボランティアの高齢化も課題となっています。

方向性

市民が多種多様なサービスや支援などの情報を把握するために、どのようなサービスや支援があるのかを定期的に伝え続けることが必要であるため、今後も情報の発信に努めます。また、自然災害発生時（水害や雪害など）、市民の生活を支えるには多くの人の力が必要となるため、ボランティア意識の醸成とボランティア活動に取り組む担い手の確保を行い、ボランティア活動の活性化を図っていきます。

実施項目と具体的内容

☆重点項目

実施項目と具体的内容	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年
市民福祉活動支援センター“ふれあい”の活用 ボランティア活動を推進するため、担い手と受け手のマッチングを図り、ボランティアのニーズに対応できるよう調整を図ります。 また、ボランティア活動の拠点として、研修会の開催や会議室の貸出、ボランティアやNPO法人に関する情報収集、相談に対応します。	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施	継続 実施
☆ボランティア活動の推進 市民のボランティア活動に対する意識や関心が高まるよう、ホームページや広報紙などを活用して情報を積極的に発信します。また、講座や研修の開催、新たな活動者の発掘と登録等を行い、地域や福祉施設等で活動するボランティアの育成と支援を行います。 市民が、社会福祉やボランティア活動に関する理解を深め、体験や交流、発表・研修の場づくりを行い、活動の輪を広げていき、ボランティアとして地域福祉事業の推進に尽力された方へ、福祉功労者として表彰を行い、これまでの活動の功績を讃えます。	情報 発信 育成 支援 福祉大会 と共催	情報 発信 育成 支援 福祉大会 と共催	情報 発信 育成 支援 福祉大会 と共催	情報 発信 育成 支援 福祉大会 と共催	情報 発信 育成 支援 福祉大会 と共催
ふれあい福祉活動応援事業 ボランティア等の福祉活動団体、地区、企業、その他の団体が行う社会福祉活動や先導的な社会福祉事業等に対し、助成金を交付することにより、共生・共働の福祉のまちづくりを推進します。	2団体 助成	2団体 助成	2団体 助成	2団体 助成	2団体 助成
災害ボランティアの育成と情報発信 災害ボランティア養成講座を毎年継続的に開催し、災害ボランティア登録や育成を行います。 また、「災害ボランティアセンター設置運営マニュアル」に沿って、市総合防災訓練と合同で設置運営訓練を継続実施していきます。 その他、社協に災害ボランティア要請等があった場合、災害ボランティア登録者や上山青年会議所をはじめ各関係機関団体等に対し、情報提供するとともに、状況に応じて移動手段の確保や資機材の調達などに努め、活動の支援を行います。	研修会 年2回 登録 育成 情報 発信	研修会 年2回 登録 育成 情報 発信	研修会 年2回 登録 育成 情報 発信	研修会 年2回 登録 育成 情報 発信	研修会 年2回 登録 育成 情報 発信

実施項目と具体的内容	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年
除雪ボランティア活動の実施 年々増加する除雪のニーズに対応するため、地区会長や民生委員・児童委員、各関係機関、ボランティア等と連携しながら、ボランティアの確保と活動体制を整備します。活動日を決め、ボランティアによる除雪活動を実施します。	1～2月 5回 実施	1～2月 5回 実施	1～2月 5回 実施	1～2月 5回 実施	1～2月 5回 実施



除雪ボランティア活動



災害ボランティア活動



調理ボランティア活動



配食ボランティア活動

基本計画（２）意識づくり

＝市民が福祉に関心をもち、理解を深める環境を作っていく＝

実施項目

福祉学習の推進（学校・公民館等）

広報活動の充実（広報紙・ホームページ・情報紙等）

アンケート結果より抜粋

- ・ SNS を通じて発信するなど若い世代を巻き込むためには工夫が必要である。
- ・ 市内小中学校、授業等の中に福祉に携わる学習を取り入れていただきたい。
- ・ 社協の活動について、知らない人が多いので啓発活動の必要性を感じている。
- ・ 福祉活動の大切さやありがたさは当事者にならないと実感がわからないので、その他の人たちに興味を持ってもらえるような活動が必要である。福祉に携わらない人のほとんどはそもそも福祉って何？という状態だと思うので、そういう人を少しでも少なくしていくことがこれからの課題ではないか。

現状と課題

本市で生活する誰もが地域の一員であるという意識を醸成し、また、福祉に関する課題や活動への興味を促し、地域活動への参加を通して地域づくりにつながるよう福祉学習を推進しています。しかし、新型コロナウイルス感染症の影響により、地区活動の制限や学校等と連携して活動する回数が減少している状況にあります。

そのため、市内の学校や福祉施設、公民館等と連携を図り、福祉活動に対する市民や学生等の意識と関心が高まるよう福祉学習を行い、共にささえあう地域づくりを推進する必要があります。

また、本会では、広報紙やホームページ等で市民に向けた情報発信を行っています。が、本会の基本的役割や活動内容が、十分に市民に浸透されていない状況があります。

方向性

これからの地域福祉は、自助、公助、そして共助を基本として、市民一人ひとりが福祉に対して関心を持ち、分け隔てなく互いにささえあっていくくみが求められています。そのためには、地域に住む住民だけではなく、地域に存在する機関団体、企業などが幅広く地域福祉に対する理解と関心を持つことが重要であり、福祉学習の機会の場や、本会の活動をわかりやすく周知するため、広報紙やホームページはもとより、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を活用した情報発信を行い、若者から高齢者まで、幅広く情報が行きわたるよう、情報提供を行っていきます。

実施項目と具体的内容

☆重点項目

実施項目と具体的内容	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年
福祉学習の推進（学校・公民館等） 地域の福祉施設や関係機関等を活用しながら、高齢者や障がい者との交流やボランティア活動、介護体験等を通じて、福祉社会への関わり方を学ぶことで、地域共生社会の理解促進を図ります。 また、より多くの方から参加いただくため、学校・公民館等へ積極的に情報発信を行います。	学校 公民館等 3回実施	学校 公民館等 3回実施	学校 公民館等 4回実施	学校 公民館等 4回実施	学校 公民館等 4回実施
☆広報活動の充実（広報紙・ホームページ・情報紙等） 多くの市民が、地域福祉活動やボランティア活動等への意識の向上や関心につながるよう、紙面の内容を工夫しながら広報紙を作成します（社協だより「ふれあい」、ボランティア情報紙）。 また、ホームページや広報紙の他に、SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）を開設して、広く市民に情報提供を行います。 その他、本会の概要や役割、福祉サービスや、市内福祉施設等の情報を記載した冊子を作成・配布し、市民の方々に会議等で周知・啓発を図ります。	広報紙 3回/年 情報紙 2回/年 社協冊子 作成配布	広報紙 3回/年 情報紙 2回/年 社協冊子 作成配布	広報紙 3回/年 情報紙 2回/年 社協冊子 作成配布	広報紙 3回/年 情報紙 2回/年 社協冊子 作成配布	広報紙 3回/年 情報紙 2回/年 社協冊子 作成配布



高齢者疑似体験



基本目標３ つながる

生活支援サービスを充実させて、人・社会みんながつながり、日常生活支援体制をつくる

基本計画（１）活きがいつくり

＝連携や協働による、つながりあった福祉サービスを提供していく＝

実施項目

温泉デイサービス事業／お元気温泉デイサービス事業／ふれあい食事サービス事業
福祉バスの運行／在宅福祉サービスの充実

アンケート結果より抜粋

- ・地域の活性化のためにもできるだけ多くの行事に参加して、地域の皆さんと協力していきたい。
- ・年１回ほどで構わないので世帯・世代を超えての楽しい催しを開いてほしい。
- ・自宅以外に居場所がない人への支援や居場所づくりをお願いしたい。

現状と課題

本市においても、少子高齢化による人口減少や多様な生活様式により、地域でのつながりが希薄化しています。日常的な見守り活動は行われていますが、新型コロナウイルス感染症の影響により、活動の制限や老人クラブ・子ども会などの取り組みは規模が縮小しており、地域住民同士のふれあいや社会参加活動が少なくなっています。人との交流や活動の減少によって、心身機能の低下や閉じこもりによる孤独・孤立につながるおそれがあります。

方向性

地域福祉を推進していくためには、社会参加や日常的な近所づきあいによる交流はとても重要となります。今後も、少子高齢化による人口減少が進む中で、一人暮らし高齢者世帯、高齢者夫婦世帯も増加していることから、気軽に参加できる事業や交流の場の提供、サービスの充実と周知を行います。

実施項目と具体的内容

実施項目と具体的内容	令和5年 2023年	令和6年 2024年	令和7年 2025年	令和8年 2026年	令和9年 2027年
温泉デイサービス事業（市委託事業） 市内の旅館を会場に、高齢者の介護予防事業の一環として、入浴、会食、お楽しみ会等を通じて、参加者同士のふれあいの場を提供し、健康で生きがいのある生活を支援します。	年間 50回 実施	年間 50回 実施	年間 50回 実施	年間 50回 実施	年間 50回 実施
お元気温泉デイサービス事業 介護予防と社会参加の機会をつくるため、在宅で生活する高齢者を対象に、老人福祉センター寿荘を会場に実施します。サービスの充実に努め、参加者の生きがいにつながるよう支援します。	年間 30回 実施	年間 40回 実施	年間 40回 実施	年間 45回 実施	年間 45回 実施
ふれあい食事サービス事業（市委託事業） 65歳以上の一人暮らし世帯、日中一人暮らし、高齢者夫婦世帯等に対し、調理ボランティアによる栄養バランスのとれた手作りのお弁当を、配食ボランティアが高齢者宅に届け、食生活の支援と配達を通じた安否確認を行います。	週1回 300 食/月	週1回 300 食/月	週1回 300 食/月	週1回 300 食/月	週1回 300 食/月
福祉バスの運行（市委託事業） 福祉団体の活動や公民館の研修事業等の移動手段として、福祉バスを運行し、市民の社会参加及び生きがいづくりの促進を図ります。	100回 1,000人 /年	100回 1,000人 /年	120回 1,400人 /年	120回 1,400人 /年	120回 1,400人 /年
在宅福祉サービスの充実 効率的、効果的かつ適切で、利用者本位で信頼される質の高い在宅福祉サービスを提供します。 ○訪問介護事業 ○居宅介護支援事業 ○地域密着型通所介護事業 ○通所型サービスA事業 ○地域包括支援センター（市委託事業） ○ふれあい訪問サービス事業 ○身体障がい者居宅介護支援事業 ○子育て支援ヘルパー派遣（家事支援）事業 利用者に対しアンケート調査を実施し、現状を把握するとともに、評価を行い、サービスの資質向上に努めます。	サービス 提供 満足度 75%	サービス 提供 満足度 76%	サービス 提供 満足度 77%	サービス 提供 満足度 78%	サービス 提供 満足度 80%

關係資料

上山市地域福祉活動計画策定委員会設置要綱

(設置)

第1条 社会福祉法人上山市社会福祉協議会（以下「**本会**」という。）が住民主体の地域福祉活動計画を策定するため、上山市地域福祉活動計画策定委員会（以下「**委員会**」という。）を置く。

(目的)

第2条 住民、ボランティア、社会福祉関係団体等と協力・協働し、地域での支え合い・助け合い活動を総合的に展開するための指針として「地域福祉活動計画」を策定することを目的とする。

(構成)

第3条 委員会は委員20名以内で構成し、次に掲げるものから本会会長が委嘱する。

- (1) 地区会長
- (2) 民生児童委員
- (3) 公民館
- (4) 福祉団体
- (5) 医療・社会福祉施設
- (6) ボランティア
- (7) 行政関係者
- (8) 福祉関係団体
- (9) 学識経験者

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、令和4年2月4日から令和5年3月31日までとする。

(委員長及び副委員長)

第5条 この委員会に委員長1名及び副委員長1名を置く。委員長及び副委員長は委員の互選によって選出する。

2 委員長は、会務を総理し、会議の議長となる。

3 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

(会議)

第6条 委員会は会長が招集する。

(委員以外の者の出席)

第7条 委員会が必要と認めるときは、委員会に委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(庶務)

第8条 委員会の庶務は、本会事務局において処理する。

(雑則)

第9条 この要綱で定めるほか、運営に関する必要な事項は、別に定める。

附 則

この要綱は、令和4年2月4日から施行する。

令和3年度 上山市地域福祉活動計画策定委員名簿

<敬称略>

No.	氏 名	役 職 等	備 考
1	齋藤英雄	上山市地区会長会会長	委員長
2	奈良崎正明	上山市民生児童委員連合協議会会長	
3	山田君夫	上山市地区公民館館長代表	
4	佐藤勘治	上山市老人クラブ連合会会長	
5	石井浩吉	上山市身体障がい者福祉協会会長	
6	猪狩良佳	特別養護老人ホーム蓬仙園施設長	
7	山口祐介	就労継続支援B型事業所こまくさの里生活相談員	
8	赤城教之	社会医療法人みゆき会病院医療福祉相談課課長	
9	高橋恵子	村山地域ボランティアの輪連絡会上山市代表	
10	土谷晃司	上山市福祉課副主幹兼地域福祉係長	
11	齋藤琢也	上山市子ども子育て課副主幹兼子育て支援係長	
12	青山 真	上山市健康推進課副主幹兼高齢介護係長	
13	遠藤友敬	上山市生涯学習課副主幹兼生涯学習係長	
14	富樫錦矢	上山青年会議所理事長	
15	晋道勇一	上山市商工会青年部部長	
16	奥山伸広	山形県社会福祉協議会地域福祉部部長	
17	都築光一	学識経験者（東北福祉大学）	副委員長

事務局

No.	氏 名	役 職 等	備 考
18	鏡 洋志	上山市社会福祉協議会事務局長	
19	花澤辰之	上山市社会福祉協議会主査	
20	五十嵐 歩	上山市社会福祉協議会主事	
21	堀田直美	上山市地域包括支援センター主任	

令和4年度 上山市地域福祉活動計画策定委員名簿

＜敬称略＞

No.	氏 名	役 職 等	備 考
1	堀川博美	上山市地区会長会会長	委員長
2	欠 員	上山市民生児童委員連合協議会会長	
3	山田君夫	上山市地区公民館館長代表	
4	佐藤勘治	上山市老人クラブ連合会会長	
5	石井浩吉	上山市身体障がい者福祉協会会長	
6	猪狩良佳	特別養護老人ホーム蓬仙園施設長	
7	山口祐介	就労継続支援B型事業所こまくさの里生活相談員	
8	赤城教之	社会医療法人みゆき会病院医療福祉相談課課長	
9	高橋恵子	村山地域ボランティアの輪連絡会上山市代表	
10	土谷晃司	上山市福祉課副主幹兼地域福祉係長	
11	齋藤琢也	上山市子ども子育て課副主幹兼子育て支援係長	
12	青山 真	上山市健康推進課副主幹兼高齢介護係長	
13	遠藤友敬	上山市生涯学習課副主幹兼生涯学習係長	
14	富樫錦矢	上山青年会議所理事長	
15	晋道勇一	上山市商工会青年部部長	
16	奥山伸広	山形県社会福祉協議会地域福祉部部長	
17	都築光一	学識経験者（東北福祉大学）	副委員長

事務局

No.	氏 名	役 職 等	備 考
18	鏡 洋志	上山市社会福祉協議会事務局長	
19	花澤辰之	上山市社会福祉協議会主査	
20	五十嵐 歩	上山市社会福祉協議会主事	
21	曳地彩華	上山市社会福祉協議会主事	
22	堀田直美	上山市地域包括支援センター主任	

上山市地域福祉活動計画策定までの経緯

◇ 策定委員会

No.	期 日	場 所	内 容
1	令和4年2月4日（金） ※県内の新型コロナウイルス感染拡大のため書面開催とした。	市民福祉活動支援センター ふれあい	○委嘱状交付、委員長、副委員長の選任 ○地域福祉活動計画策定の趣旨 ○第3次上山市地域福祉活動計画の中間評価について ○第4次上山市地域福祉活動計画策定に向けてのスケジュールについて
2	令和4年6月24日（金） 午後1時30分～ 午後3時まで	市民福祉活動支援センター ふれあい	○委嘱状交付、委員長の選任 ○地域福祉活動計画策定の趣旨 ○アンケート（案）について
3	令和4年11月11日（金） 午後1時30分～ 午後3時まで	市民福祉活動支援センター ふれあい	○アンケート結果の報告について ○基本目標・基本計画・実施項目（案）について
4	令和5年2月17日（金） 午後1時30分～ 午後3時まで	市民福祉活動支援センター ふれあい	○第4次上山市地域福祉活動計画（案）について

◇ アンケート

アンケート名	期 日	対 象	配布枚数
市民アンケート	令和4年7月8日～ 令和4年8月12日まで	上山市在住で 20歳以上の方	650枚
民生委員・児童委員、主任児童委員アンケート		民生委員・児童委員、 主任児童委員	86枚
上山市社会福祉法人等連絡協議会アンケート		上山市社会福祉法人 等連絡協議会	29枚

◇ 上山市地域特性調査

平成30年度から開始し、令和4年度までに上山市内99地区のうち64地区で実施。

◇ 事務局における活動計画策定に向けた具体的取り組み

期 日	名 称	内 容
令和3年 12月8日	事務局会議	策定委員会設置要綱、委員構成等の検討
令和4年 2月4日	第1回策定委員会	委員委嘱、計画評価、策定方針等 (コロナ感染拡大防止のため書面開催)
3月7日	事務局会議	アンケート等の検討
3月25日	事務局会議	アンケート等の検討
4月5日	事務局会議	アンケート等の検討
4月13日	事務局会議	アンケート等の検討
5月17日	事務局会議	アンケート等の検討
6月24日	第2回策定委員会	委員委嘱、策定趣旨、アンケート等の説明
7月19日	事務局会議	アンケートの配布準備・配布
8月9日	事務局会議	アンケートの回収等
9月21日	事務局会議	体系図等の検討
10月6日	事務局会議	体系図等の作成
11月11日	第3回策定委員会	アンケート結果の報告、基本目標・基本計画・ 実施項目(案)の検討
12月7日	事務局会議	実施項目・具体的取り組み内容等(案)作成
令和5年 1月17日	事務局会議	実施項目・具体的取り組み内容等(案)作成
2月17日	第4回策定委員会	地域福祉活動計画(案)決定
3月14日	理事会	地域福祉活動計画の承認
3月22日	評議員会	地域福祉活動計画の報告
3月下旬	事務局会議	ダイジェスト版の企画と作成
4月下旬 (予定)	地域福祉活動計画の発行	地域福祉活動計画の印刷製本 上山市地域福祉活動計画策定委員・関係機関等 に配布
7月上旬 (予定)	ダイジェスト版の発行	広報紙に折込み全戸配布、ホームページに掲載

第4次上山市地域福祉活動計画

令和5年3月発行

発行者 社会福祉法人 上山市社会福祉協議会

住 所 〒999-3135

山形県上山市南町4番5-12号

電 話 023-695-5095

FAX 023-695-5096

E-mail kaminoyama@ic-net.or.jp

<http://care-net.biz/06/kaminoyama/>